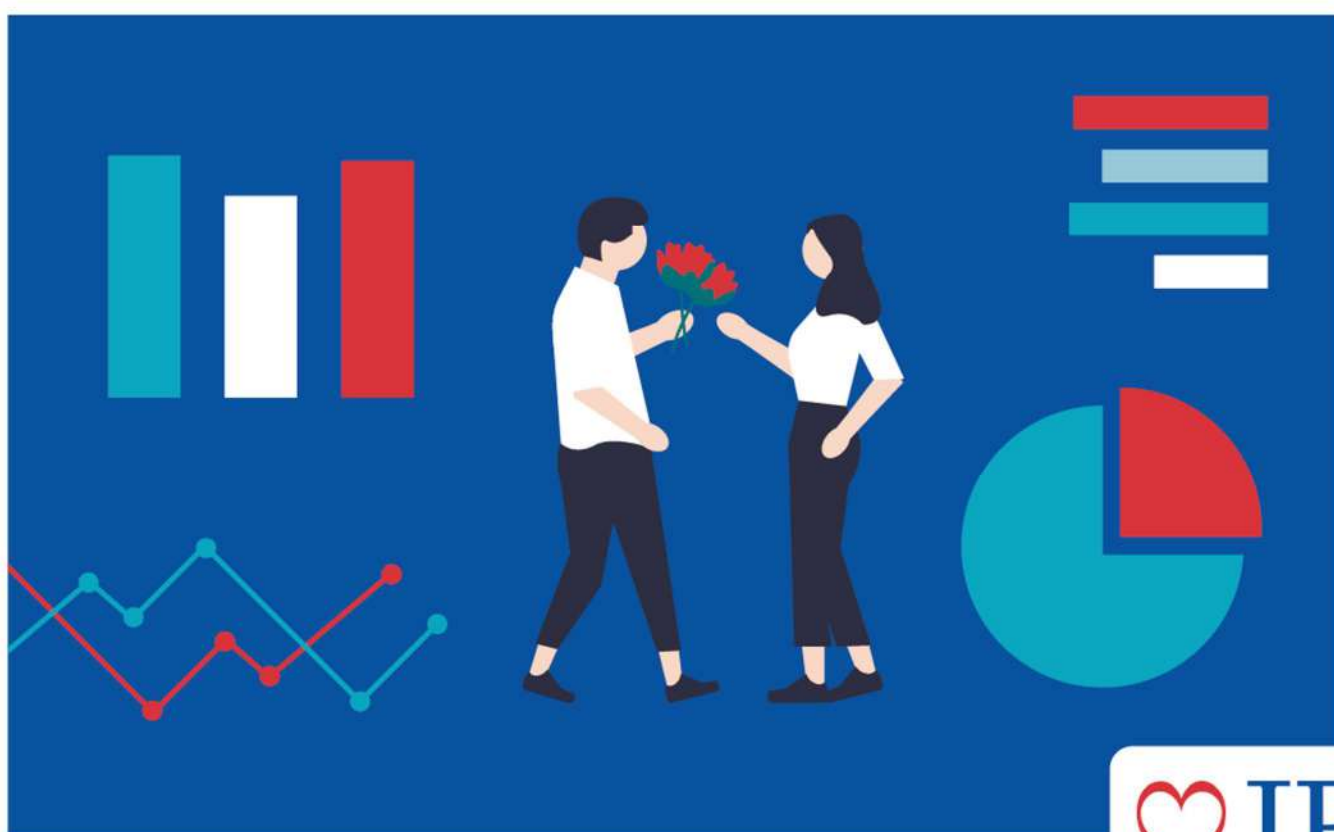




2023年度版

# 成婚白書

1万人超の成婚データから見る、人口減少を食い止める未婚化対策



# 目次

<b>I</b>	<b>はじめに</b> .....	02
	I B J 代表取締役社長 石坂 茂	
	・ 婚活支援を異次元の少子化対策の中心に！「おせっかい」が日本を救う .....	03
	学習院大学経済学部教授 鈴木 亘氏	
	・ 2023 年の成婚者の特徴 .....	05
<b>II</b>	<b>年齢と年収が与える影響</b> .....	06
	・ 「平均年齢」の罠で結婚できない男女が続出 .....	07
	ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子氏	
	・ 年齢と成婚の関係 .....	09
	・ 年収と成婚の関係 .....	11
<b>III</b>	<b>地域における婚活の実態</b> .....	14
	・ 地域別の特徴 .....	15
	・ 七十七銀行(宮城県)のグループ会社が結婚相談所を開業 .....	19
	七十七ヒューマンデザイン株式会社 代表取締役 庄司 大志氏	
<b>IV</b>	<b>成婚者の声</b> .....	20
	( I B J で成婚退会された 3,815 名に「地元での婚活」「結婚相談所の活動について」調査を実施)	
<b>V</b>	<b>成婚者データ分析</b> .....	27
	・ 成婚者と退会者の特徴 .....	28
	・ 年齢と成婚しやすさ .....	34
	・ 学歴と成婚しやすさ .....	38
	・ 年収と成婚しやすさ .....	40
	・ その他要素と成婚しやすさ .....	42
	(職業・飲酒・喫煙・血液型・婚姻歴・子供の有無・続柄・家族と同居)	
<b>VI</b>	<b>おわりに</b> .....	48

# はじめに

IBJ代表取締役社長 石坂 茂

「成婚白書」は毎年IBJが公開している、日本で最も大きな婚活会員データベースの内容です。安定したシステムの稼働と、会員サポートをする婚活カウンセラー（仲人）の努力を背景に、数多の結婚カップルが生まれています。2023年はIBJ全体で12,527組の結婚が誕生し、日本の婚姻数489,281組に対して約2.6%となっています。やがてこの割合は5%を超えてくると思われますが、民間企業一社に20組に1組の結婚を依存した状況は尋常ではないと思います。そして、初婚年齢のピークにあたる20代の利用は増えてきているもののまだ少ない状況で、民間の結婚相談所利用者は30代、40代が多いことも皆さんに知ってもらいたいことです。



若い独身男女の結婚離れ、未婚化は年々進んでしまっており、パートナーシップの多様化は進みませんが、結婚に代わる新しいカップル形態が一般化することは難しいでしょう。日本の結婚カップルが過去50年間継続して、平均2人前後のお子様を授かっているという事実を踏まえれば「結婚支援」こそが、国や自治体が注力している少子化対策のど真ん中であるべきです。自治体の結婚支援は「年度予算」で中長期的支援戦略が描きづらいことや、「プライベートな問題」で介入すべきでないという意見が出ることを理由に、中途半端なケースが大多数です。しかしながら、未婚化問題はすでに「地域存続問題」と同時に「国家的問題」であります。国が行政的リードをして、取り組むべき問題であり、待ったなしの状況です。

IBJは成婚白書のデータのみならず、当該分野における正確な問題把握をしており、適切な解決策を提供できる自負があります。成婚白書も活用して、IBJが社会的使命感をもって、国や自治体と対話、議論をしていきたいと考えています。

## 婚活支援を「異次元の少子化対策」の中心に！

### 「おせっかい」が日本を救う

学習院大学経済学部教授 鈴木 亘

2023年の出生者数(外国人含む速報値)は75万8631人と、過去最低を記録した前年をさらに5.1%も下回る結果となった。この減少ペースが続けば、2035年にも出生数は50万人を割り込む可能性がある。まさに、日本社会、日本経済を根幹から揺るがす、未曾有の危機である。こうした中、政府もようやく重い腰を上げて、「異次元の少子化対策」として対策に本腰を入れ始めた。もっとも、その内容をみると、児童手当の対象拡大や増額、育休給付金の支給率引き上げ、こども誰でも通園制度の創設など、「既に結婚した夫婦」に対する子育て支援策ばかりである。これでは学術的に見て、出生率を高める効果はほとんど認められない。なぜならば、日本の少子化の主因は、「未婚化」にあるからである。

実は、結婚した夫婦の出生率(完結出生子ども数)は現在も1.90(2021年)とかなり高い。少子化に歯止めをかけられる合計特殊出生率は2.06とされるから、1.90との差はわずかである。現在の合計特殊出生率が1.26(2022年)と低迷している理由は、結婚した夫婦が子どもを産まなくなったのではなく、若者が結婚しなくなった、できなくなったことにある。特に我が国は非嫡出子の割合が低い(約2%)文化のため、結婚しなければ子どもは生まれない。異次元の少子化対策の中心に据えなければならないのは、未婚者に対する「婚活支援」である。



ではなぜ、今回の異次元の少子化対策から婚活支援が外されたのであろうか。関係する政治家や官僚たちに尋ねると、返ってくる答えは、①未婚が少子化の主因と知らなかった、②結婚は個人のプライベートな選択なので、政策になじまない、③婚活支援は国に前例がなく、何をして良いかわからない、④失敗のリスクも高そうだ、というものである。まず、①については問題外、②についても、まだそんな認識かと驚かざるを得ない。既に、我が国は、個人のプライベートな選択である出生にすら介入せざるを得ないところまで来ている。婚活支援を外すことは全く筋が通らない。問題は③、④であるが、確かに一部の地方自治体が行っている婚活パーティーなどの実績を見る限り、国が二の足を踏むことは理解できる。

しかし、競争市場の中で切磋琢磨している結婚相談所などの民間事業者の実績には、目を見張るべきものがある。国が今、注目すべきは、民間のノウハウ、「おせっかい」の力である。実際、かつて我が国では、ご近所や親せき、職場の上司などがおせっかいをして、若い男女を結び付けることが広範に行われていた。人口学では、こうした習慣がなくなったことが、近年の未婚率上昇の約9割を説明するという研究もある。また、近年の経済学（行動経済学）の研究によれば、おせっかいには「ナッジ」として、人々の行動を変容させる大きな力があることがわかってきている。人間は生物的に埋め込まれている認知バイアスのため、時に合理的ではない選択をしてしまう。大事なことでも、つい先送りしたり、小さなリスクにたじろいでしまう。その修正を図るために、ちょっとした後押し（ナッジ）が有効なのである。

いずれにせよ、有効な婚活支援策の鍵はこの「ナッジ（おせっかい）」にある。ただ、まだまだ誤解や偏見の強い政治や行政を動かすためには、その有効性を証明するエビデンスが必要である。その意味で、「成婚白書」のように、客観的な統計分析を公表することは誠に重要な取り組みである。この白書が、関係者に広く読まれることを期待したい。

# 2023 年の成婚者の特徴

本書では、IBJグループが運営する結婚相談所の成婚者（当社では「婚約」を指す）の特徴を、年齢やジェンダー、地域の特徴などにも触れながら、成婚を増やすために重要なポイントを検証する。まず、2023年に成婚した13,516名のうち、代表的な成婚者像は以下となる。

※代表的 = 各指標の中央値を指す

代表的な成婚者像（2023年）	
男性	女性
年齢 <b>38歳</b>	年齢 <b>34歳</b>
在籍日数 <b>303日</b>	在籍日数 <b>251日</b>
お見合い数 <b>11回</b>	お見合い数 <b>10回</b>
交際数 <b>5名</b>	交際数 <b>4名</b>
交際日数 <b>127日</b>	交際日数 <b>125日</b>



2023年の代表的な成婚者像は、男性38歳、女性34歳となった。昨年と比較して大きな変化はないが、注目したいのは、在籍日数「約9ヶ月（男女合わせた中央値）」、交際日数「4ヶ月程度」と短い期間で結婚まで意思決定しているということである。これは、一般的な平均交際期間4.3年<sup>1</sup>の1/12の期間となる。

約9ヶ月で結婚観のすり合わせを行い決断まで進めるのは、仲人の存在が大きい。第三者目線で「出会い～成婚」までを二人三脚でサポートし、婚活者が主体性を持って活動できるよう意思決定を促す。価値観の多様化が進む現代において、当事者同士で結婚観の擦り合わせを行うことは容易ではないが、仲人が間に入ることで、早い段階で擦り合わせを行い、お互いに納得して結婚へと進むことができる。

# 年齢と年収が与える影響

## 「平均年齢」の罠で結婚できない男女が続出

株式会社ニッセイ基礎研究所 人口動態シニアリサーチャー

天野 馨南子

国が公表した2022年の平均初婚年齢は男性31.1歳、女性29.7歳だ。この数字を見て「そうか、俺は30歳過ぎたら結婚を考えようかな」「あら、私は28歳くらいで婚活すればいいのね」と考える人がもしいるとすれば、ほぼ「婚活敗者」となるだろう。それはなぜか。平均初婚年齢とは、統計的に結婚した人の「真ん中」年齢でも「最も多い」年齢でもない。平均とは、大きな数字に引っ張られやすい特徴を持っている。

10人の未婚男性たちのグループがあったとしよう。そのうち9人は27歳で結婚した。しかし1人だけが芸能人となり成功して、50歳で結婚したとする。すると、彼らの平均初婚年齢は、 $(27 \times 9) + 50 = 293$ 歳、 $293 \div 10 = 29.3$ 歳となり、本来は「このグループの男性は27歳で結婚するのが普通」というのが正しい解釈だが、平均初婚年齢を使ってしまうと29.3歳で結婚するのが普通と誤解してしまう人もいるだろう。「平均」という数字に惑わされて婚期を芸能人なみに遅らせている男女が散見されるが、統計的に見れば婚活敗者となる可能性が高いだろう。

2022年の婚姻届全件分析の結果からは、初婚同士の男女のピーク年齢（婚姻届の最多提出年齢）は、ともに27歳である。実は20年前と変わらない。2番目に多いのが26歳、3番目が28歳で、これも男女同じである。初婚同士結婚の婚姻届を分析すると、以下のような結果となったので紹介しておきたい。

【男性の婚姻届】		【女性の婚姻届】	
29歳までの方の届	全体の55%（過半数）	28歳までの方の届	全体の58%（過半数）
32歳まで	全体の72%	30歳まで	全体の72%
34歳まで	全体の80%（5組に4組）	32歳まで	全体の81%（5組に4組）
38歳まで	全体の90%	35歳まで	全体の90%

「男性は女性よりも結婚が遅くても何とかなる」ような結果では全くない。男性の婚姻届提出者の8割を占める34歳までの年齢で結婚しなければ、上位2割に相当するような突出した婚活優位性をもっていなければならないが、そもそもそういう男性は何もしなくても女性が寄ってくるので、婚活は不要ともいえる。

女性は婚期を認識している方が男性よりは多いようであるが、婚姻届提出者の8割超を占める32歳までに結婚相手を探さねば婚活に苦戦することになる。100歩譲っても30代前半までに決めることが大切であることがわかる。

結婚相談所の問題点は、全体的に適齢期を過ぎた30代からの男女が多いことである。そして、適齢期を過ぎた男性が若い女性を希望するケースが残念ながら多いが、何事もジェンダーレスが当然となった令和時代において、若い男女は「同じ価値観」の相手を希望している。結果的に初婚同士の婚



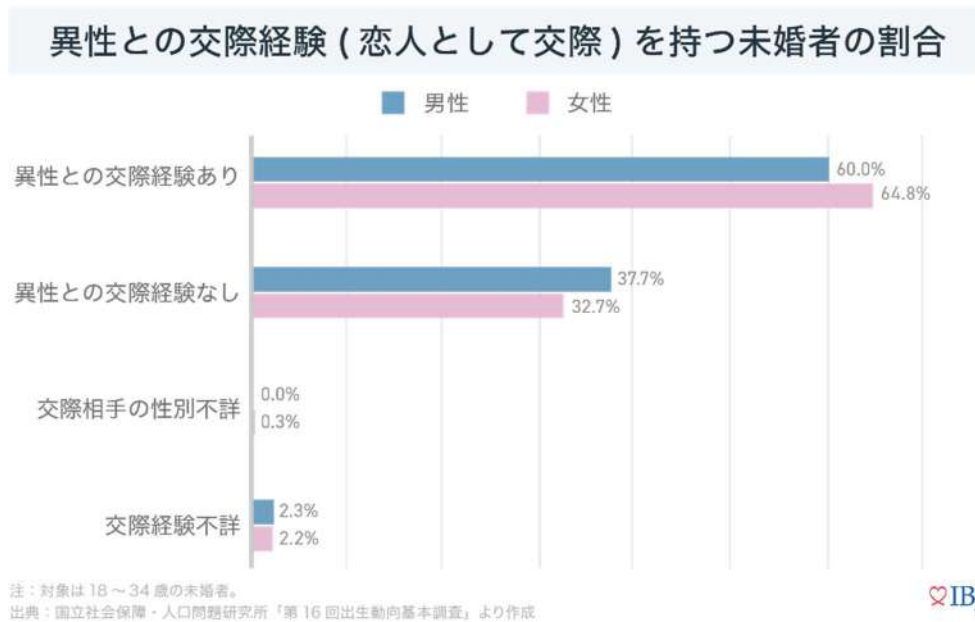
姻届における夫婦の年齢差は以下の通りだ。

【初婚同士夫婦の年齢差】		【結婚可能性の高い年齢差】		
1位	夫妻同年齢	22.3%	男女1歳差以内	47.0%
2位	夫1歳上	14.2%	男女2歳差以内	61.5%
3位	妻1歳上	10.5%	男女3歳差以内	71.8%
4位	夫2歳上	9.6%		
5位	夫3歳上	7.2%		

結果からは3歳差以内が実現可能性の高い年齢差といえる。大谷翔平氏の結婚を日米のファンが祝福しているが、彼ほどの大物であっても妻との年齢差は2歳差であり、しかも日本人男性の初婚同士の結婚を果たした男性の過半数（55%）が占める29歳での結婚だ。大谷翔平氏はその能力はスーパーマンであっても、奢ることなく統計的に高確率の時期に「普通に」婚活したと言えるだろう。飾らない人柄が彼の魅力の一つであるが、きわめてナチュラルな彼の婚活を見習いたいものである。

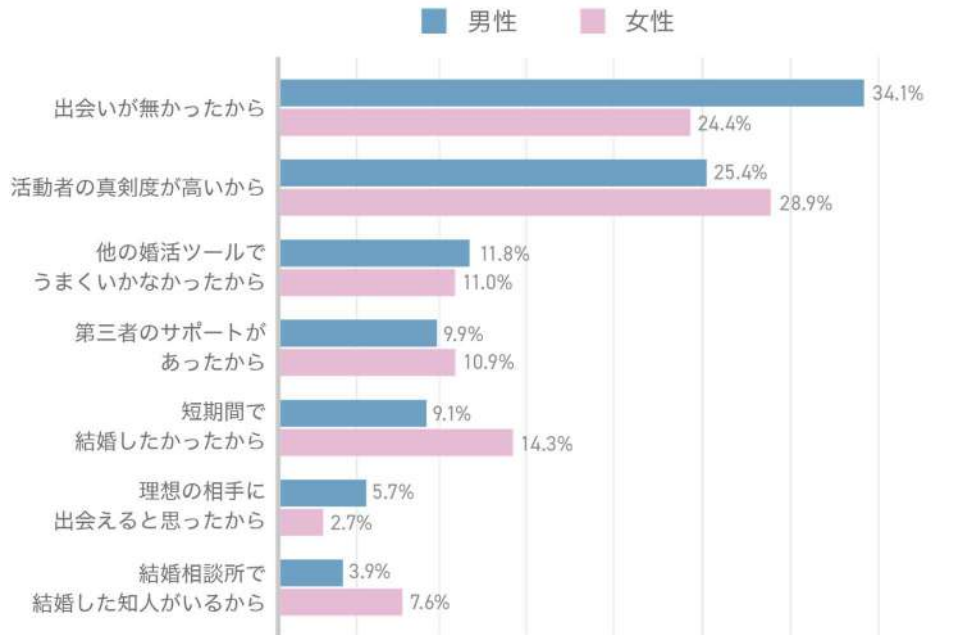
# 年齢と成婚の関係

出生動向基本調査によると、18～34歳の独身男女のうち「いずれ結婚するつもり」と回答した割合は8割<sup>1</sup>を維持しているが、異性との交際経験に関して、男性4割、女性3割が「恋人としての交際経験が無い」ということが明らかになっている。結婚への意思は、2000年代より横ばいで推移しているにも関わらず、交際経験が無い男女は年々増加傾向にある。



そのような中で、婚活サービスの需要も高まっており、「夫と妻が知り合ったきっかけの構成割合<sup>1</sup>」として、「ネットで」（SNS・アプリ等を用いたもの）は13.6%、結婚相談所等の「見合い結婚」は9.0%、を占め、「職場や仕事」での出会いが減少した。マッチングアプリ等のネット系恋活・婚活サービス利用者の裾野が広がったことで、より真剣な出会いを求めて結婚相談所へ乗り換える方が増えている。

## 結婚相談所に入会した理由

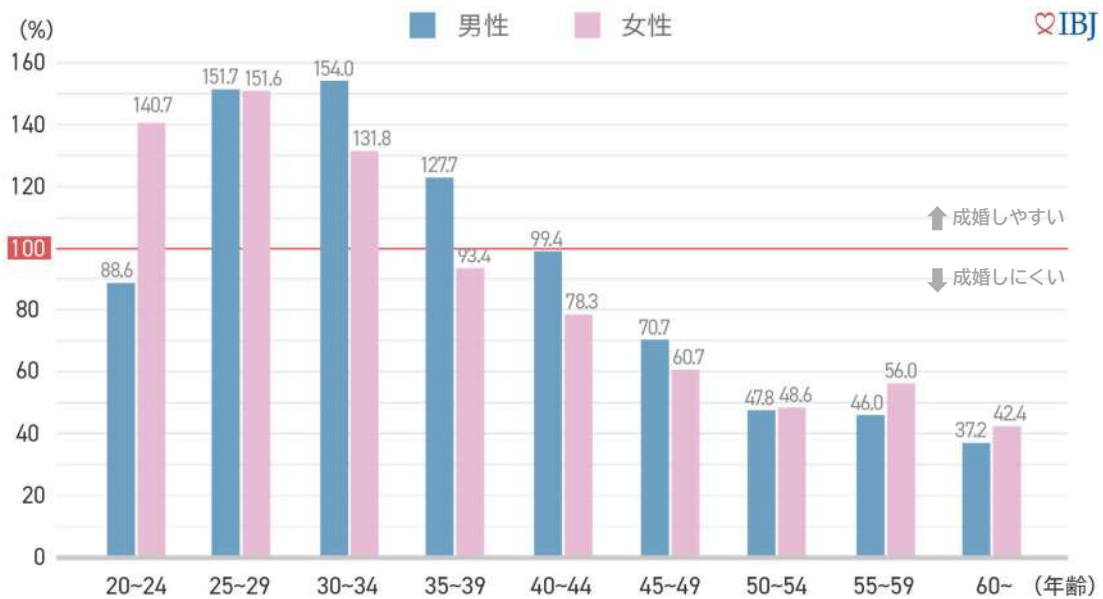


注：IBJ 結婚相談所ネットワークで成婚退会された 3,796 名に調査



IBJの成婚者に実施した調査<sup>2</sup>では、結婚相談所に入会した理由として「活動者の真剣度が高かったから」という回答が、男性 25.4%、女性 28.9%と高い割合となった。また、「第三者のサポートがあったから」も1割程度回答が集まっており、異性との交際経験がない若者が3割程度いることから、若者を中心に“お付き合いの仕方が分からない”という方のサポートニーズが高まっている。

## 年齢と「成婚しやすさ」 - 全国 -



※「成婚しやすさ」とは

IBJ 結婚相談所の活動会員数における各年代の比率を分母とし、成婚者における各年代の比率を分子として表したもの（100%が平均）

成婚しやすい年齢として、女性は「20～29 歳」男性は「25～34 歳」がボリュームゾーンとなり、男女共に年齢が上がるに連れて成婚しにくくなる傾向が。女性は 35 歳以降、男性は 40 歳以降から 100%を下回り、成婚しにくくなることから、早期活動の支援とサポートを強化していく必要がある。

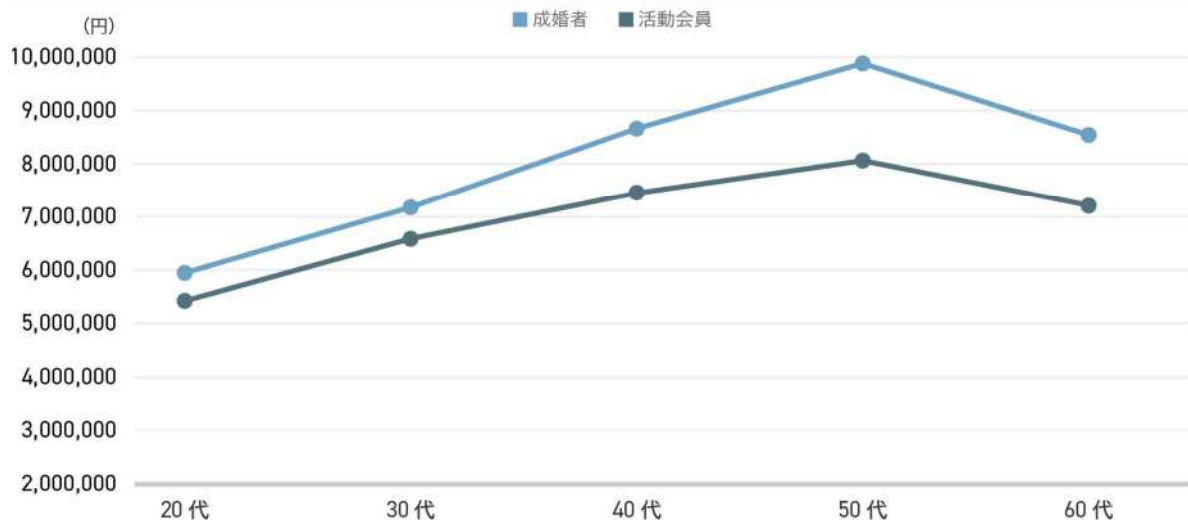
## 年齢別「在籍日数」と「お見合い数」比較（中央値）

	男性				女性			
	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳	20-24 歳	25-29 歳	30-34 歳	35-39 歳
在籍日数	154.0	212.0	261.0	308.0	169.0	205.0	252.0	273.0
お見合い数	6.0	8.0	11.0	12.0	7.0	9.0	11.0	11.0

年齢別に「在籍日数」と「お見合い数」を比較すると、男女共に年齢が上がるに連れてお見合い数が増え、在籍日数も長くなる。年齢が低いほど、少ないお見合い数で決断している傾向があり、年齢を重ねるごとにお見合い数が増え、20代は10回以下に対し、30代は10回以上に増える。特に30代後半の男性は、20代前半の男性と比較して2倍のお見合いをしていることが分かる。

## 年収と成婚の関係

### 年齢別 男性年収（成婚者と活動会員比較）

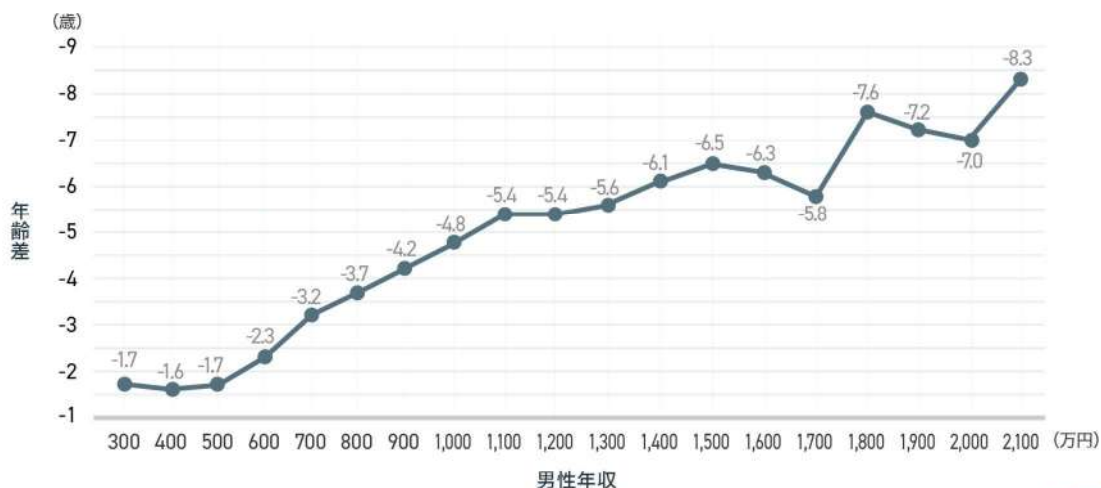


	20代	30代	40代	50代	60代
成婚者	5,958,904	7,171,769	8,616,766	9,848,771	8,557,522
活動会員	5,390,766	6,573,278	7,434,567	8,049,737	7,172,168

注：「年収」は各年代の平均値を使用

男性の成婚者と活動会員の平均年収を比較すると、どちらも 50 代をピークとして年収が上がり続けている。また、20・30 代は 60 万円ほど成婚者の方が年収が高く、40 代以降になると 100 万円以上もの差が開いていることから、男性は年齢が上がるに連れて、より高い年収を求められる傾向がある。

### 男性の年収別、成婚相手との年齢差



続いて、男性の年収別に成婚相手との年齢差を比較すると、年収が上がるに連れて、お相手との年齢差が大きくなる傾向がある。年収 1,000 万円未満の場合は 5 歳差以内に留まり、1,800 万円を超えると 7 歳差程になる。結婚相手に求める年齢がある場合は、男女ともに、自身の年齢や年収を把握したうえで活動をすると、結婚につながる可能性が高くなるだろう。

### 女性の年収公開率と成婚率

	成婚率	
	成婚退会した方	成婚せずに退会した方
公開	43.3%	21.5%
非公開	28.9%	78.5%



一方女性の「成婚率」と「年収公開・非公開の割合」を見ると、年収を公開していた女性は全体の 2 割程度に留まるが、そのうちの成婚率は 43.3%と、非公開の女性よりも成婚率が 14 ポイント高い。年収を公開している女性が少ないことから、年収額の大きさよりも、年収を公開していることで好感を持たれている可能性もある。

## 女性の年収公開別お見合い数

	成婚退会した方		成婚せずに退会した方	
	お見合い数	申受数	お見合い数	申受数
公開	17.3回	170.4件	13.1回	150.6件
非公開	14.1回	139.9件	7.9回	108.2件



続いて、女性の年収公開別に「お見合い数」とお見合いの「申受数」を比較すると、年収公開していた成婚女性は、非公開の女性に比べて、お見合い数は 3.2 回、申受数は 30.5 件多いことが分かる。退会者においても、年収を公開していた方のお見合い数は 5.2 回、申受数は 42.4 件多く、女性の年収公開状況が、お見合いの組みやすさに影響していると言える。

昨今、結婚相談所においても“共働き”を希望する男性が増えていることから、女性も年収を公開することで、お見合いや成婚の可能性が高まるかもしれない。

# 地域における婚活の実態

# 地域別の特徴

## 結婚相談所（IBJ）における地域別入会数比較

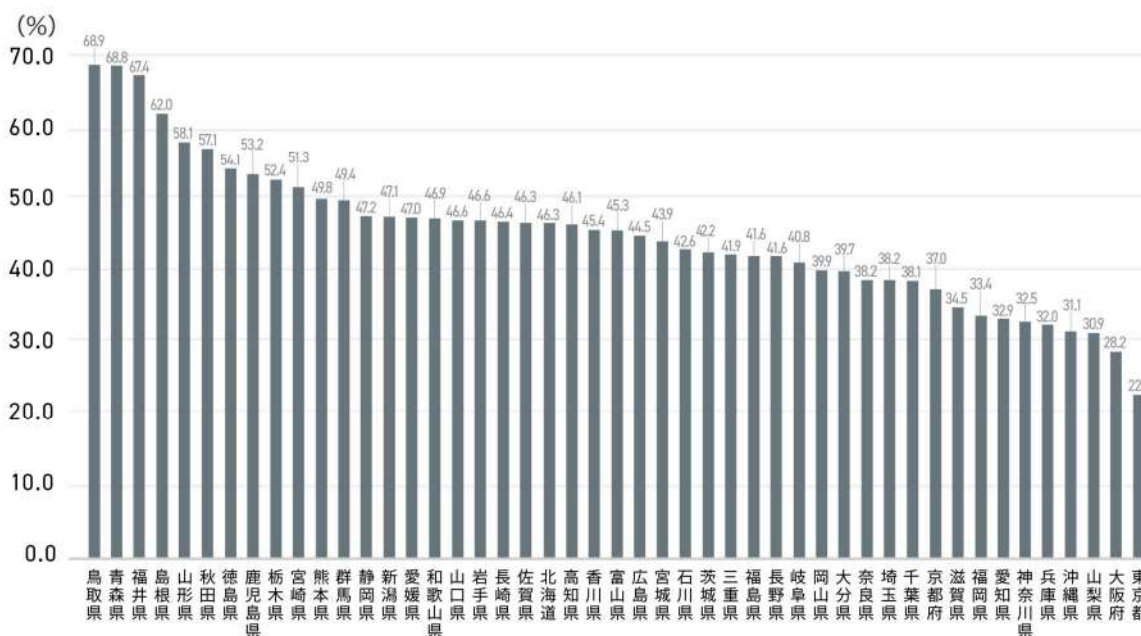
	北海道	東北	東京都	関東 (東京都以外)	北陸	甲信越	中京	近畿	中国	四国	九州・沖縄
20代	490%	335%	158%	177%	298%	471%	163%	122%	200%	200%	276%
30代	333%	219%	139%	156%	270%	338%	137%	112%	177%	177%	211%

2019年と2023年比較



2019年と2023年の地域別入会数を比較すると、20代は半数以上のエリアが200%を超え、特に「北海道」「東北」「甲信越」の3エリアは300%を上回っている。入会数の増加率が大きいこの3エリアは、20代の転出超過数が多いエリアであることも起因し、地域での出会いが減少することで、結婚相談所の利用に繋がっていると考えられる。

## 都道府県別 成婚率



成婚者における都道府県別成婚率を高い順に並べると、「鳥取県」が最も高く、「東京都」が最も低くなった。成婚率の高い県は活動者の母数も少なく、退会者も少ないことから成婚率が上がりやすいという前提のもと、若者が多く集まる東京都などは、地方よりも出会いが多く、結婚相談所以外の婚活ツールを利用するケースもあり、成婚率が低くなりやすい傾向がある。



## 都道府県別 成婚率※成婚率（全体）の高い都道府県順

都道府県	全体	男性	女性	男性 - 女性	成婚しやすさ
鳥取県	68.9%	83.8%	54.1%	29.7%	男性
青森県	68.8%	67.3%	70.5%	-3.1%	女性
福井県	67.4%	58.0%	79.5%	-21.5%	女性
島根県	62.0%	63.4%	60.5%	2.9%	男性
山形県	58.1%	51.3%	66.0%	-14.8%	女性
秋田県	57.1%	53.3%	60.3%	-6.9%	女性
徳島県	54.1%	69.1%	41.8%	27.3%	男性
鹿児島県	53.2%	62.7%	47.1%	15.7%	男性
栃木県	52.4%	54.2%	50.3%	3.9%	男性
宮崎県	51.3%	58.6%	45.3%	13.2%	男性
熊本県	49.8%	62.6%	39.7%	22.9%	男性
群馬県	49.4%	49.3%	49.5%	-0.2%	女性
静岡県	47.2%	44.6%	50.0%	-5.4%	女性
新潟県	47.1%	49.4%	44.7%	4.6%	男性
愛媛県	47.0%	53.2%	41.1%	12.1%	男性
和歌山県	46.9%	51.1%	43.2%	8.0%	男性
山口県	46.6%	54.1%	38.1%	16.0%	男性
岩手県	46.6%	36.2%	58.1%	-21.8%	女性
長崎県	46.4%	55.9%	38.6%	17.3%	男性
佐賀県	46.3%	41.1%	52.4%	-11.4%	女性
北海道	46.3%	51.1%	41.9%	9.1%	男性
高知県	46.1%	50.0%	42.9%	7.1%	男性
香川県	45.4%	52.1%	39.9%	12.2%	男性
富山県	45.3%	40.3%	51.4%	-11.1%	女性
広島県	44.5%	53.0%	36.3%	16.7%	男性
宮城県	43.9%	51.7%	38.3%	13.4%	男性
石川県	42.6%	38.1%	47.4%	-9.3%	女性
茨城県	42.2%	40.8%	43.7%	-2.9%	女性
三重県	41.9%	36.4%	47.2%	-10.8%	女性
福島県	41.6%	32.2%	56.8%	-24.6%	女性
長野県	41.6%	40.1%	43.7%	-3.6%	女性
岐阜県	40.8%	38.3%	44.0%	-5.7%	女性
岡山県	39.9%	40.9%	39.2%	1.7%	男性
大分県	39.7%	42.9%	36.4%	6.5%	男性
奈良県	38.2%	46.5%	32.3%	14.2%	男性
埼玉県	38.2%	41.4%	35.7%	5.7%	男性
千葉県	38.1%	42.5%	34.1%	8.4%	男性
京都府	37.0%	50.0%	29.4%	20.6%	男性
滋賀県	34.5%	37.1%	31.6%	5.5%	男性
福岡県	33.4%	43.0%	28.0%	15.0%	男性
愛知県	32.9%	33.3%	32.6%	0.7%	男性
神奈川県	32.5%	36.9%	29.1%	7.8%	男性
兵庫県	32.0%	40.0%	26.9%	13.1%	男性
沖縄県	31.1%	38.5%	26.5%	12.0%	男性
山梨県	30.9%	24.5%	40.2%	-15.7%	女性
大阪府	28.2%	37.8%	22.9%	15.0%	男性
東京都	22.3%	29.8%	18.2%	11.6%	男性

都道府県別に“男女どちらが成婚しやすいか”を比較すると、進学や就職を機に女性が都市部へ転出し“女性余り”となりやすい都市部では男性のほうが成婚しやすく、“男性余り”が進む地方部では女性のほうが比較的成婚率が高くなる傾向がある。東京一極集中の影響もあり、東京都の女性は成婚率18.2%と最も低く、競争率が激しいことが見て取れる。

## 2023年 都道府県転入超過数 社会増エリア ベストランキング(人)

ベスト	都道府県	総数	男性	女性	どちらが増えたか
1	東京都	68,285	31,265	37,020	女性
2	神奈川県	28,606	14,387	14,219	ほぼ同じ
3	埼玉県	24,839	12,539	12,300	ほぼ同じ
4	大阪府	10,792	2,913	7,879	女性
5	千葉県	4,785	-388	5,173	女性のみ
6	福岡県	4,387	2,430	1,957	男性
7	滋賀県	12	-83	95	女性のみ

出典：天野 馨南子【地方創生・人口動態データ報】

2023年 都道府県転入超過ランキング ニッセイ基礎研究所基礎研レポート 2023年2月5日号より改編

住民基本台帳移動報告<sup>3</sup>より、都道府県別の転入者数が転出者数を上回る“社会増”のエリアは7県となり、1位は「東京都」ということが報告された。どちらが増えたかを男女別に比較すると、福岡県以外の6県に関しては「女性が増加」または「男女ともほぼ同じ」という結果となった。

上位エリアは都市部が中心となっており、男女別の増加数（総数）は、女性の方が25%多くなることから、都市部に女性が集中していることが見て取れる。

次ページでは、“社会減”のエリアをワースト順に並べた表を掲載しているが、女性が都市部や都市周辺エリアに流出していることは明らかであり、東京一極集中は男性よりも女性の集中が著しい。若者が地元を離れるタイミングとして、圧倒的に多いのは「就職」、その他では「進学」「結婚」などが挙げられることから、社会減エリアにて人口を定着させるためには、地域内での雇用を増やすことや、結婚を創出することが重要になる。

社会増エリアでは、他のエリアから若者が多く流入することから、会員数も増え、出会える機会が多くなる。そのため都道府県単位で成婚者を増やしていくための施策を、地域と企業が連携して取り組む必要があるだろう。

## 2023年 都道府県転入超過数 社会減エリア ワーストランキング(人)

ワースト	都道府県	総数	男性	女性	どちらが減ったか
1	広島県	-11,409	-5,745	-5,664	ほぼ同じ
2	愛知県	-7,408	-4,471	-2,937	男性
3	兵庫県	-7,397	-4,528	-2,869	男性
4	福島県	-6,579	-3,173	-3,406	女性
5	長崎県	-6,439	-2,399	-4,040	女性
6	三重県	-6,397	-3,538	-2,859	男性
7	静岡県	-6,154	-2,884	-3,270	女性
8	新潟県	-5,850	-2,741	-3,109	女性
9	青森県	-5,656	-2,470	-3,186	女性
10	岡山県	-5,621	-2,920	-2,701	男性
11	北海道	-5,238	-1,307	-3,931	女性
12	愛媛県	-4,779	-2,183	-2,596	女性
13	岩手県	-4,623	-1,864	-2,759	女性
14	岐阜県	-4,516	-2,062	-2,454	女性
15	山形県	-3,853	-1,629	-2,224	女性
16	山口県	-3,718	-1,150	-2,568	女性
17	福井県	-3,408	-1,636	-1,772	女性
18	大分県	-3,108	-1,386	-1,722	女性
19	秋田県	-2,909	-1,114	-1,795	女性
20	香川県	-2,784	-1,487	-1,297	男性
21	鹿児島県	-2,752	-646	-2,106	女性
22	京都府	-2,635	-1,491	-1,144	男性
23	徳島県	-2,557	-1,082	-1,475	女性
24	石川県	-2,461	-1,001	-1,460	女性
25	和歌山県	-2,123	-927	-1,196	女性
26	長野県	-1,928	-659	-1,269	女性
27	島根県	-1,889	-766	-1,123	女性
28	茨城県	-1,863	-485	-1,378	女性
29	富山県	-1,862	-747	-1,115	女性
30	高知県	-1,835	-550	-1,285	女性
31	鳥取県	-1,756	-679	-1,077	女性
32	熊本県	-1,624	-538	-1,086	女性
33	栃木県	-1,500	-427	-1,073	女性
34	宮城県	-1,452	-649	-803	女性
35	奈良県	-1,319	-875	-444	男性
36	佐賀県	-1,176	-588	-588	同じ
37	宮崎県	-1,111	-388	-723	女性
38	群馬県	-941	126	-1,067	女性のみ
39	山梨県	-586	-44	-542	女性
40	沖縄県	-490	40	-530	女性のみ

出典：天野 馨南子【地方創生・人口動態データ報】  
2023年 都道府県転入超過ランキング ニッセイ基礎研究所基礎研レポート 2023年2月5日号より改編

## 七十七銀行(宮城県)のグループ会社が結婚相談所を開業

七十七ヒューマンデザイン株式会社 代表取締役 庄司 大志

「100年後の東北には日本人が一人もいないかもしれない・・・」

背筋に冷たいものが走るのを感じたのは一昨年(2021年)の8月、総務省の人口推計に目を通した時のことです。当社は宮城県の地方銀行である七十七銀行の100%出資子会社として2022年8月に設立しました。人材紹介事業をメインとする会社です。それまで人材紹介に携わったことのない私は、人口減少はもちろん社会課題として認識していましたが、会社設立に伴い、改めて環境を理解しようと人口動態を調べてみたのが、冒頭に申し上げた一昨年(2021年)の8月です。

東北の人口減少率は前年比1%超で、実に全国の2倍以上の速さで日本人が減っており、しかもその減少幅は拡大傾向にあります。なので東北に日本人が一人もいなくなるXデーは、もしかすると100年以内にやって来るのかもしれませんが、100年って随分先のことのように思いますが、よく考えると100年後に突然大変な目に遭うのではなく、その間ジワジワとマーケットは縮小していくわけです。

実は開業当初、当社では「人は減る」という現実を受け入れたうえで、どうやって地域の活力を維持するかという点に主眼をおき、求人企業様への支援を中心に「人と企業」のマッチングに取り組んできました。そうすることで縮小の速度を少しでも緩やかにすることができればと考えていたのですが、どこか焼け石に水のような、いずれ限界が来るような感覚に襲われていたのも事実です。当社が結婚相談事業に乗り出した理由はまさにこの点にあり、地域の持続性を保つためには「人口減少への対応」そのものにも目を向ける必要があると考えたのです。

結婚しているカップルから生まれる子の数は50年前と比べて大きくは減っていませんし、国の調査によれば結婚に前向きな人の割合も約8割を維持していますから、出会いのきっかけや、機会の創出を支援する結婚相談事業は有効な対策のひとつです。事業への参入にあたっては、株式会社IBJ様よりご支援をいただきました。業界最大のネットワークと成婚実績を誇るIBJ加盟店として、「人と人」のマッチングをしっかりと軌道に乗せていきたいと考えています。

金融機関グループが結婚相談所を運営するという一方で、地域の皆様からは「安心して相談しやすい」というお声をいただいておりますし、当社のコンシェルジュは銀行員ですので、お金のプロでもありますから、会員様にはライフステージに応じた切れ目のないご支援が可能です。また、地方銀行として日々、様々な経営課題を共有するなかで、経営者ご本人やそのご子息・ご息女の結婚相手に関するご相談を受けることも少なくありません。私たちが結婚相談事業に取り組むことで、近年増加している中小企業の廃業要因のひとつである「後継者不足」への対応としても、お役に立つことができるはずです。

私たちの社名である「ヒューマンデザイン」という言葉には、「人を活かして地域の未来を描く」という意味を込めています。当社は人材紹介事業や結婚相談事業への取り組みを通じて、東北が多様な人材の活躍の場として活力あふれる地域になること、そして、ひと組でも多くの幸せな成婚カップルを東北で生み出していくことを目指しています。

夢みたくない話かもしれませんが、今、日本で一番人口減少が深刻なこの東北が、100年後は「日本で一番幸せな地域」と呼ばれるような未来になっていることを願っています。

# 成婚者の声

I B J で成婚退会された 3,815 名にアンケート調査を実施

## 調査結果サマリ

### テーマ①：地元での婚活

- 地元で婚活をしていた割合は男性 51.7%、女性 56.2%という結果に。
- 地元での婚活を選んだ理由として、男性は「地元で就職をしたから(28.8%)」女性「家族や友人の近くにいたかったから(30.7%)」が最多。
- 地元以外で婚活をした理由として、男女共に半数以上が「進学や就職で既に地元を離れていたから」と回答。
- 「いずれ地元に戻りたい」と考える方の割合は、男女共に 2 割程度に留まる。

### テーマ②：結婚相談所の活動について

- 婚活を始めたきっかけとして「家族が欲しいと感じたから」が最多。
- 結婚後に感じた、結婚相談所における最大のメリットとして男女共に「効率よく活動できる(交際が長引かない等)」を選択。
- 9 割の男女が仲人のサポートが「必要だった」と回答。
- 仲人とのエピソード（自由回答）

### 【データについて】

調査方法：アンケート調査

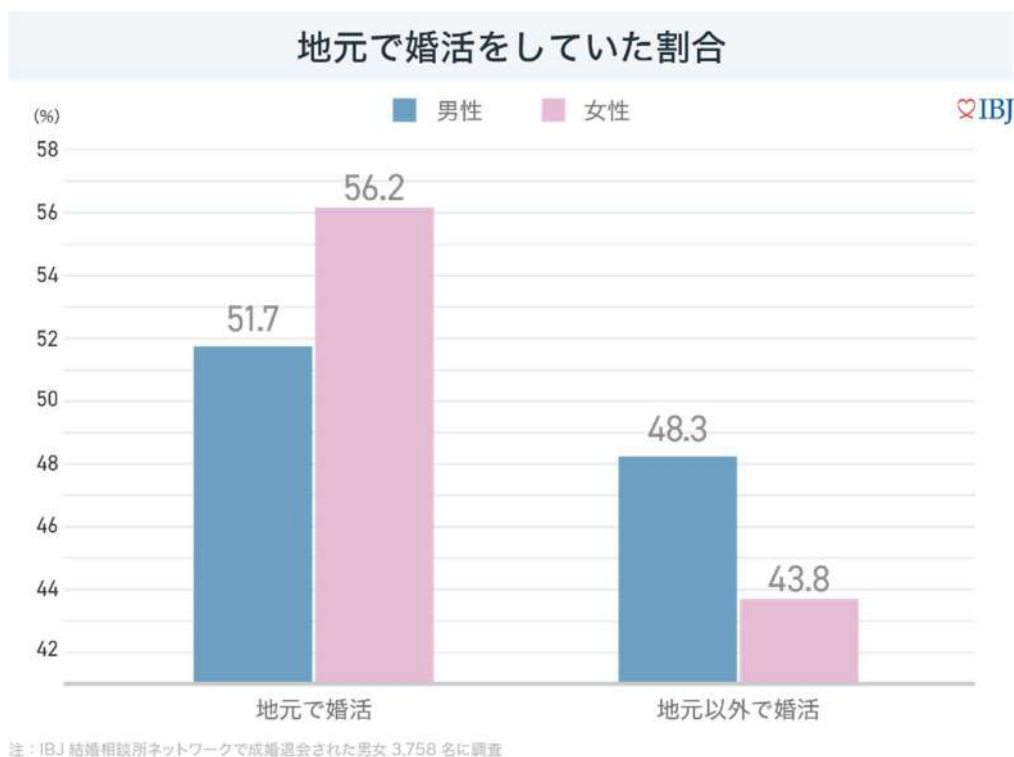
調査対象：I B J 結婚相談所ネットワークにて成婚退会された男女 3,815 名

調査期間：2024 年 2 月 8 日～2 月 20 日

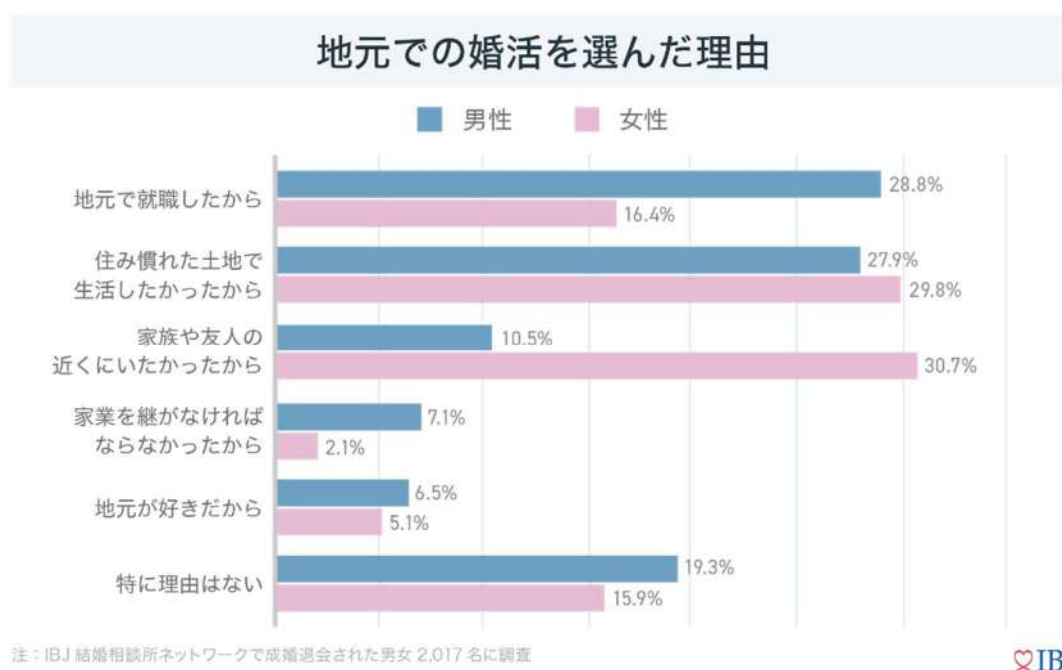
※小数点第二位を四捨五入しているため合計が 100%にならない場合がございます。

# 地元での婚活

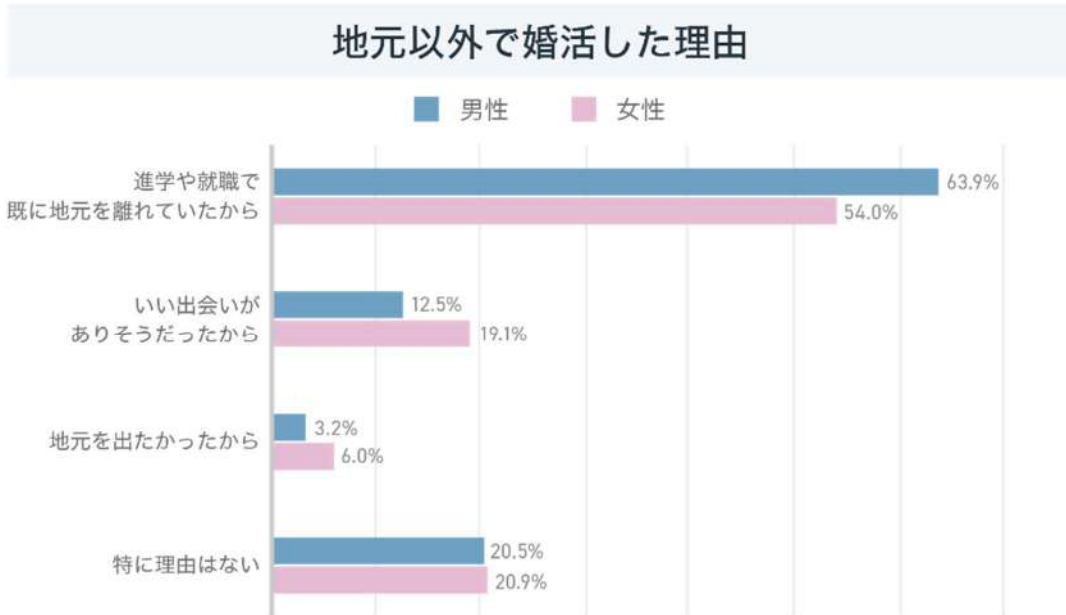
前項で「地域における婚活の実態」について実績データとともに取り上げたが、ここからはアンケート結果をもとに、成婚者の心境を紐解いていく。



「地元で婚活をしていた割合」を調査すると、地元で婚活していた方は、男女共に 5 割を超える結果となった。一方で、4 割以上の方は地元を離れて婚活をしていたことが分かる。



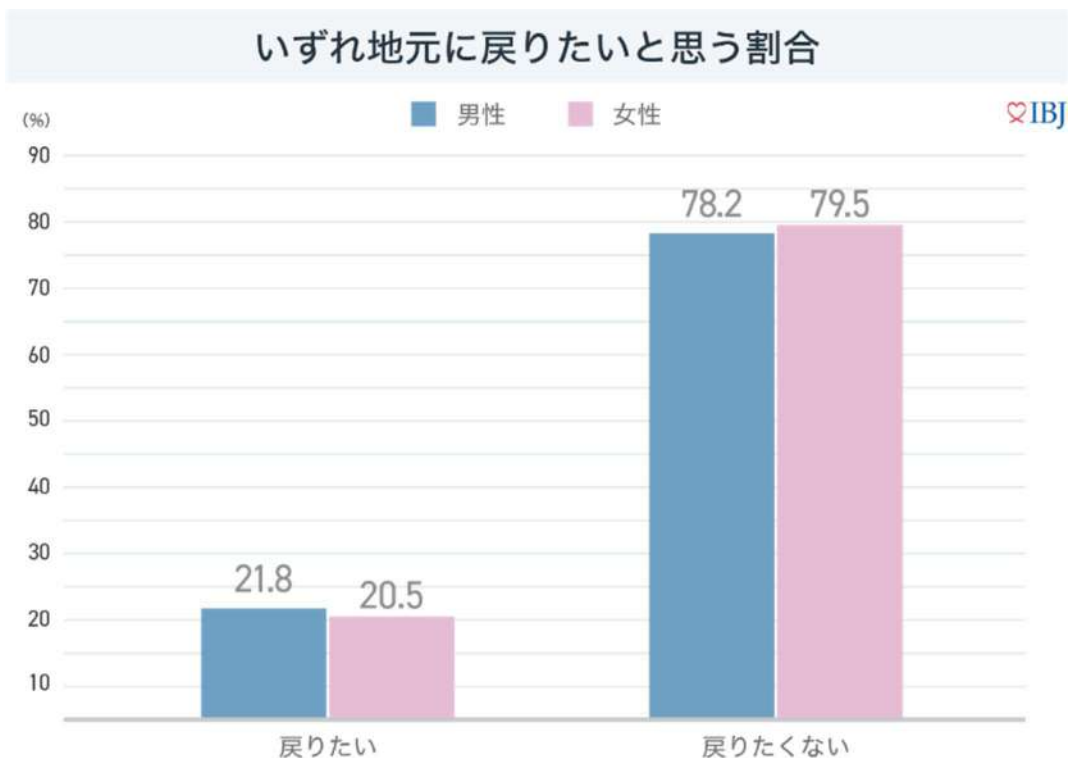
地元での婚活を選んだ理由について、男性は「地元で就職したから(28.8%)」女性は「家族や友人の近くにいたかったから(30.7%)」が最多となり、男女で異なる結果となった。女性は「住み慣れた土地で生活したかったから(29.8%)」という項目が次いで高い割合になっていることから、婚活をするうえで、男性より周辺環境を重視していると言えるのではないだろうか。



注：IBJ結婚相談所ネットワークで成婚退会された男女1,700名に調査



一方で、地元以外で婚活していた理由を伺うと、男女共に「進学や就職で既に地元を離れていたから」という回答が半数以上を占める結果に。また「いい出会いがありそうだったから」と回答した男性が1割、女性が2割となり、出会いを理由に地元以外で婚活をしているケースも見受けられた。

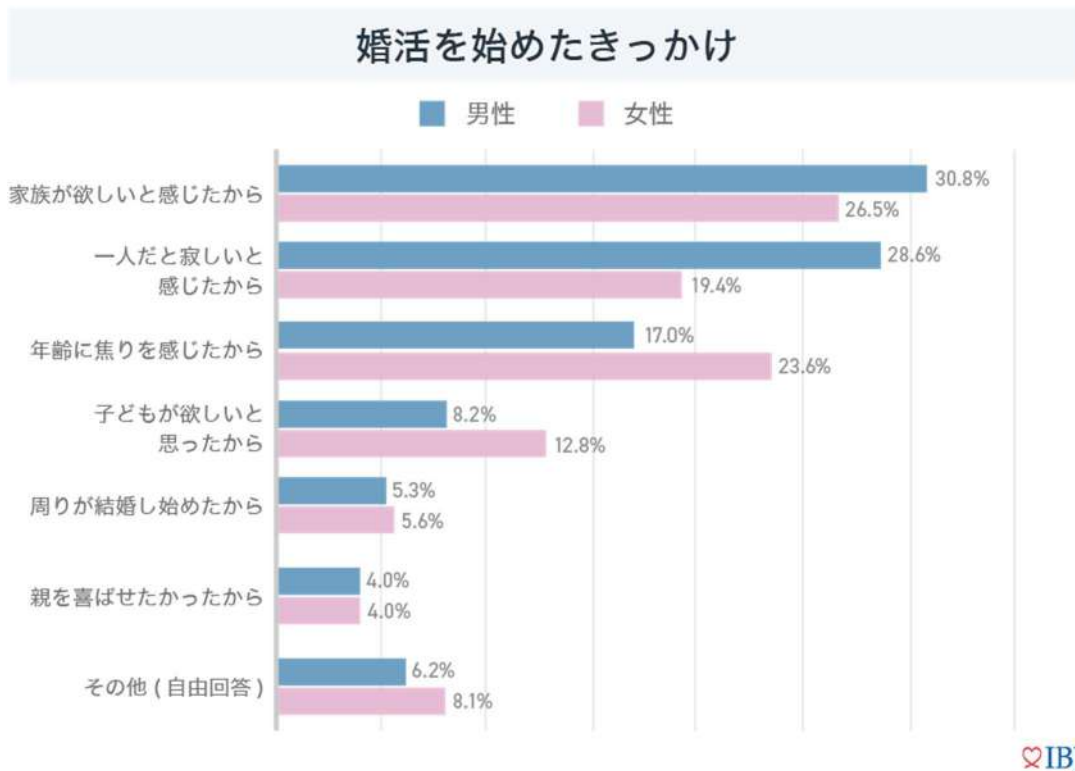


注：IBJ結婚相談所ネットワークで成婚退会された男女2,024名に調査

現在、地元以外で生活をしている方に「いずれ地元に戻りたいと思うか」伺ったところ、8割弱の方が「戻りたくない」と回答。この結果から、進学や就職で一度地元を離れてしまうと、また地元に戻ろうと考える方は少なく、困難に近い。繰り返しになるが、地元を離れてしまう前に、地域に人口を定着させる施策が必要になるだろう。

## 結婚相談所の活動について

ここからはアンケート結果をもとに、「結婚相談所」の活動前後について深掘りし、成婚者の生の声を取り上げていく。

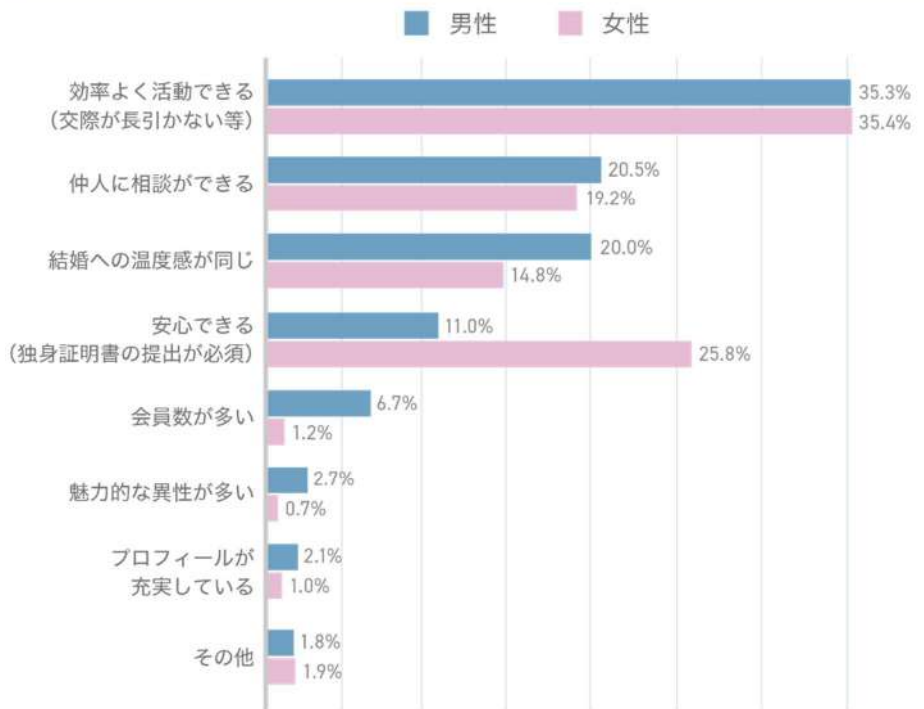


まず、婚活を始めたきっかけとして、男性は「家族が欲しいと感じた(30.8%)」「一人だと寂しいと感じた(28.6%)」がボリュームゾーンとなり、一人であることに対する不安感から婚活を始めるケースが多い。

一方女性は、「家族が欲しいと感じた(26.5%)」「年齢に焦りを感じた(23.6%)」がボリュームゾーンとなり、男性と比較すると、年齢に焦りを感じて婚活を始める割合が高くなった。特に女性は、妊娠可能な年齢に制限があることから、「子どもが欲しいと思ったから(12.8%)」と回答する割合が、男性よりも4.6ポイント高い結果となった。



## 結婚後に感じた、結婚相談所における最大のメリット

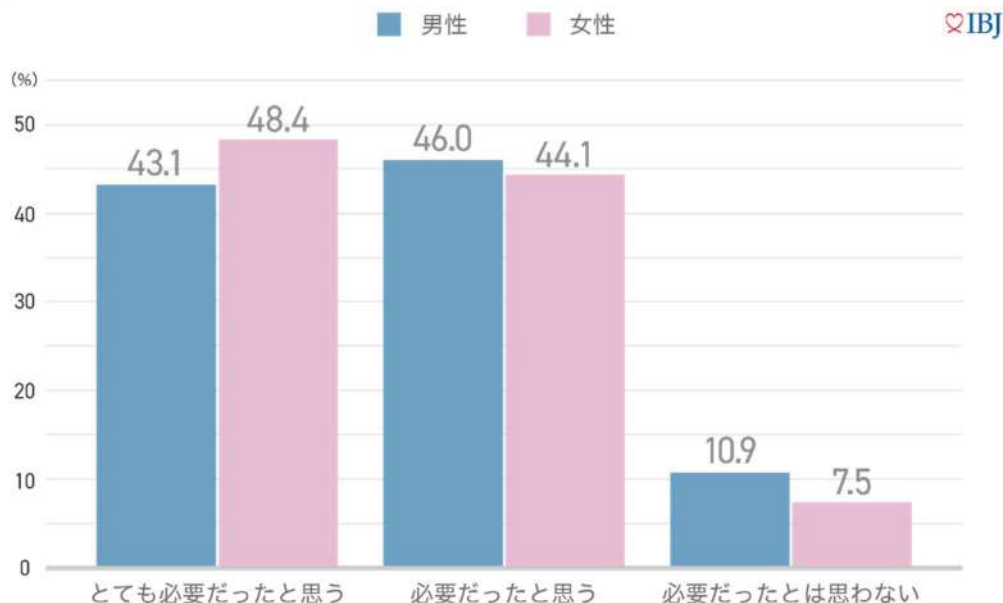


注：IBJ結婚相談所ネットワークで成婚退会された 3,792 名に調査



結婚後に感じた結婚相談所における最大のメリットとして、男女共に「効率よく活動できる(交際が長引かない等)」が最多となった。IBJの結婚相談所で活動する 1,682 名に調査した 20・30 代の入会理由として「短期間で結婚しなかったから」が最多<sup>4</sup>となることから、タイムパフォーマンスを意識した活動を望んでいる傾向がある。また、女性は「安心できる(独身証明書の提出が必須)」が 25.8%と、男性よりも 14.8 ポイント高いことから、会員情報に偽りがなく、安全性の高さを考えて選んでいることが分かる。

## 仲人のサポートは必要だったか



注：IBJ結婚相談所ネットワークで成婚退会された 3,801 名に調査



続いて、仲人のサポートが必要だったか伺うと、男女共に9割の方が「必要だった」と回答。IBJが運営する結婚相談所は、マッチングアプリと違い、仲人が成婚（婚約）までを一緒に伴走し、一人ひとりに合わせた細やかなサポートを行うことが成婚率の高さに繋がっている。

## ■ 仲人とのエピソード（自由回答）

●お相手の方が全体的に優秀なため、自分の情けなさを感じる時がありましたが、お相手が自分を好きな理由を教えてくれたり気持ちの代理返答をしてもらえたりと、色々ありますが仲人さんのサポートあってこそでした。（三重県・30代男性）

●異性と付き合うのがほぼ初めてだったので、恐縮する事が多々あった。それを相談すると甘えて良いと教えてもらい、素直に甘える事ができた。（東京都・30代女性）

●自分では気づけなかった交際相手の心情の変化を教えてもらえたおかげで破談にならずに済んだから、どうしても自分からの視点だけでは相手の気持ちの変化をとらえきれないので仲人さんのサポートは特に短期間での婚活では重要だと思います。（東京都・30代男性）

●真剣交際していた方からお断りされた際にとっても丁寧に支えていただきました。おかげで心が折れずに活動を続けることができました。また、今のパートナーとの交際を続けるか迷っていた時にもフォローしていただき、無事に成婚できました。（大阪府・40代男性）

●短期間での入籍を目標にしていたため、仲人さんに都度状況報告し、その時に必要な動きができました。初月にできるだけたくさんお会いしてそこから絞っていくなど、どのタイミングでどこまで踏み込んだ会話をするかよいなども都度アドバイスいただきすごく良かったです。（東京都・30代女性）

●何度もお見合いで断られて、もう自分は結婚できないのでは？と何度もへこみ泣いていましたが、その度に担当カウンセラーさんからの「まだ出会えていないだけだから頑張ろう！あなたの気持ちを1番に」といつも励ましてもらった。（愛知県・30代女性）

●お見合いの際、どのようなコミュニケーションを取れば良いかわからなかった自分にロールプレイを交えて教えていただいたことです。（埼玉県・20代男性）

●お相手方の仲人さんと連携して、先方の温度感、感覚を押し量れた。どこまで共有するかの濃淡、先方仲人さんの協力度合いは様々ですが、他のどの婚活でも得られないサポートだと思いました。（東京都・30代男性）

●人付き合いを億劫に感じやすいため、自分一人ではメッセージの返信が遅くなってしまいデートの間隔をあけてしまいがちなところを仲介の方にご指導・指南いただいたお陰で結婚まで辿り着けたと感じました（特にプロポーズのタイミング）。（東京都・30代男性）

## 出典一覧

- <sup>1</sup> 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」  
<https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/JNFS16gaiyo.pdf>
- <sup>2</sup> IBJ結婚相談所ネットワークにて成婚退会された3,796名に対し  
2024年2月8日～2月20日に調査した結果
- <sup>3</sup> 総務省統計局「住民基本台帳移動報告2023年結果」  
<https://www.stat.go.jp/data/idou/2023np/jissu/pdf/gaiyou.pdf>
- <sup>4</sup> IBJ結婚相談所ネットワークで活動する男女1,682人(男性1,018人、女性664人)に対し  
2023年7月24日～8月7日に調査した結果

※「成婚数」国内最多に関する調査

日本マーケティングリサーチ機構調べ(成婚数:2023年実績、2024年1月期\_指定領域における市場調査)

# 成婚者データ分析

## 2023 年成婚者数 13,516 名

### 言葉の補足

- 【成婚者】 I B J 結婚相談所ネットワーク内で成婚退会した方
- 【退会者】 I B J 結婚相談所ネットワーク内で成婚せずに退会した方（成婚退会は含めない）
- 【活動会員】 2023 年 12 月末時点で I B J 結婚相談所ネットワーク内で活動している会員
- 【成婚しやすさ】 活動会員数における各年代の比率を分母とし、成婚者における各年代の比率を分子として表したもの（100%が平均）
- 【申込数・申受数】 自身からお見合い申込みした数・相手からお見合い申込みされた数
- 【平均値】 データの値を足し合わせ、データの個数で割った値
- 【中央値】 データを大きい順に並べたとき、真ん中の順位に位置する値
- 【最頻値】 データの中で最も出現頻度が多い値

### データについて

I B J の結婚相談所（直営店・加盟店含む）で成婚退会された 13,516 名のデータを扱っており、一般の婚活者や結婚カップルの傾向を示すものではありません。会員情報に不備・不足があるデータは除外し、精緻な成婚データだけを取り扱っております。

※母数（会員数）が少ない等の理由による明らかな異常値や、変化が見られない等の理由による一部データについては除外（または年齢や性別を限定）しております。

# 成婚者と退会者の特徴

## 成婚者と退会者の比較 (中央値)

	成婚退会した方 (成婚者)		成婚せずに退会した方(退会者)		比較 (成婚者－退会者)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢	38.0	34.0	41.0	37.0	- 3歳	- 3歳
在籍日数	303.0	251.0	392.0	364.0	- 89日	- 113日
申込数	46.0	25.0	35.0	14.0	+ 11件	+ 11件
申受数	36.0	94.0	6.0	60.0	+ 30件	+ 34件
お見合い数	11.0	10.0	3.0	4.0	+ 8回	+ 6回
交際数	5.0	4.0	1.0	1.0	+ 4人	+ 3人
交際日数	127.0	125.0	-	-	-	-
年収	7,000,000	4,000,000	6,000,000	4,000,000	+ 100万円	0



### ●活動期間

成婚者と退会者を比較すると、男女共に成婚者は退会者よりも年齢が3歳低い。在籍日数は成婚者のほうが男性約3ヶ月、女性約4ヶ月、早く成婚退会している。

### ●お見合い

成婚者は退会者よりも男性は3.7倍、女性は2.5倍のお見合いを行っている。自身からお見合いを申し込む「申込数」は+11件と多くなることから、成婚者のほうが積極的に活動していることが分かる。特に男性は、お見合いの「申受数」が成婚者と退会者で6倍の差がある。一見どうにもできない数字だと思われがちだが、プロフィール写真を工夫するだけでも閲覧数が4.7倍\*増えるデータもあることから、数多くの会員の中から興味を持たれやすいよう、仲人と戦略を立ててプロフィールを作成すると「申受数」を増やすことに繋がる可能性も。

### ●交際

お見合いから交際へと進む「交際移行率 (交際数÷お見合い数)」は、成婚男性は45%、成婚女性は40%と、約2回のお見合いで交際に進んでいる。一方で、退会男性は33%、退会女性は25%と低くなることから、お見合いから交際へ進みにくい傾向があり、お相手に対するハードルの高さも一因として考えられる。

\* IBJメンバーズにて「第一印象プロデュースプラン」を受ける前・受けた後ともに2週間(14日)で計測

## 成婚者の特徴 - 全国 -

	平均値		中央値		最頻値	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢	39.0	35.7	38.0	34.0	35.0	34.0
在籍日数	459.4	373.8	303.0	251.0	150~179	150~179
申込数	138.0	61.6	46.0	25.0	1~5	1~5
申受数	100.1	146.4	36.0	94.0	1~5	21~25
お見合い数	18.7	14.8	11.0	10.0	1~5	6~10
交際数	7.1	5.7	5.0	4.0	1~5	1~5
交際日数	137.5	136.7	127.0	125.0	90~119	90~119
年収	7,729,300	4,836,500	7,000,000	4,000,000	6,000,000	4,000,000

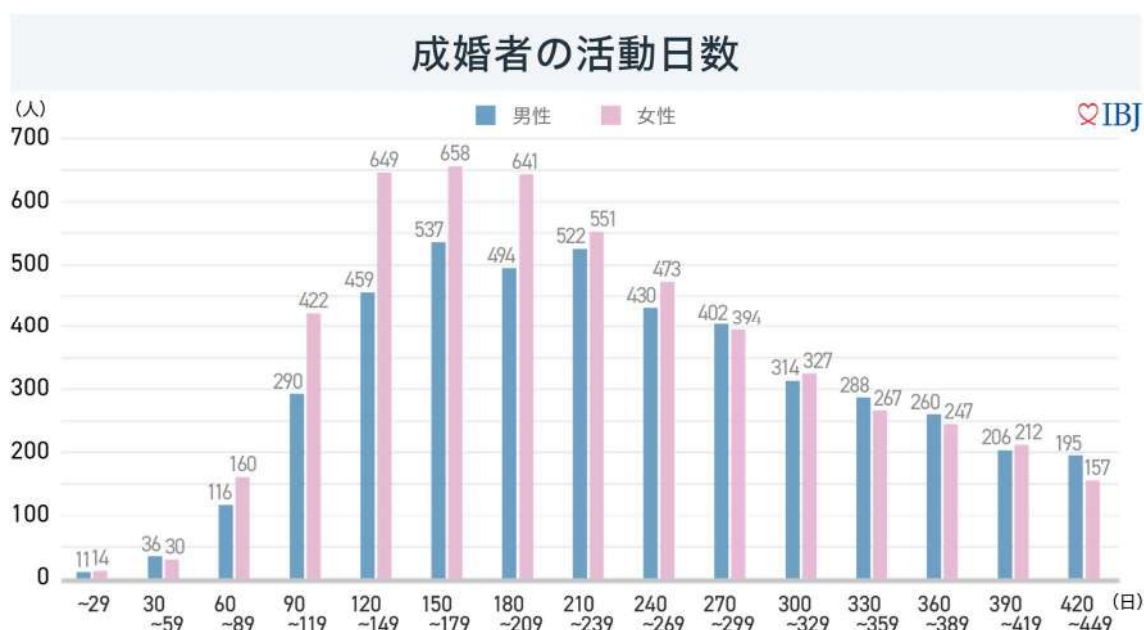


## 退会者の特徴 - 全国 -

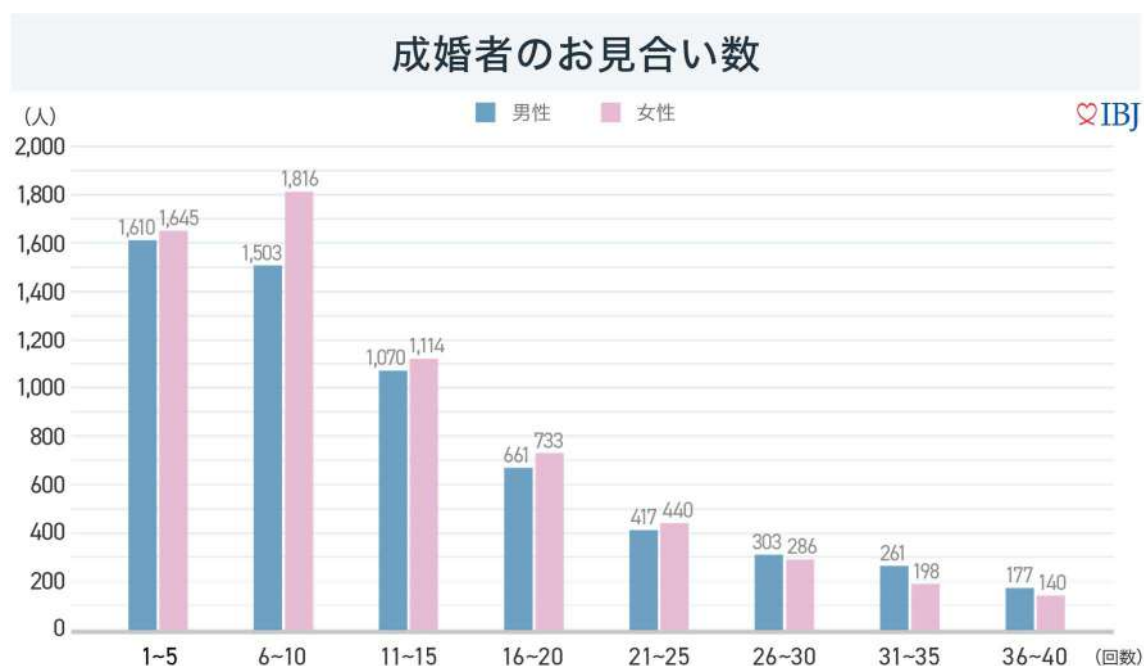
	平均値		中央値		最頻値	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢	42.5	38.2	41.0	37.0	36.0	35.0
在籍日数	728.7	673.8	392.0	364.0	120~149	180~209
申込数	125.3	47.5	35.0	14.0	1~5	1~5
申受数	47.6	111.7	6.0	60.0	1~5	21~25
お見合い数	9.1	8.4	3.0	4.0	1~5	1~5
交際数	2.9	2.7	1.0	1.0	1~5	1~5
交際日数	-	-	-	-	-	-
年収	6,541,206	4,615,420	6,000,000	4,000,000	5,000,000	3,000,000



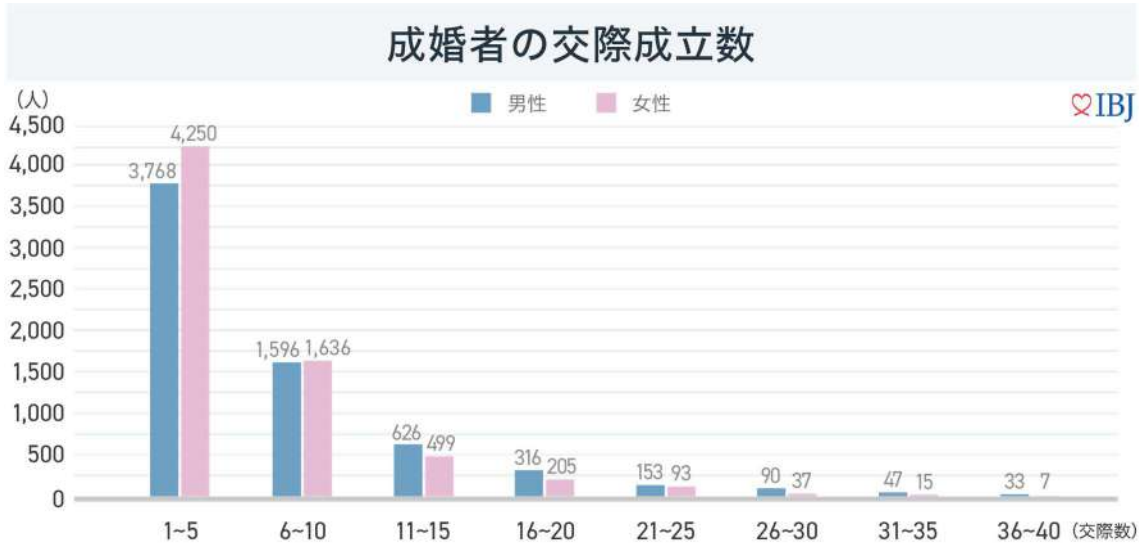
## 成婚者の特徴



続いて成婚者の特徴を細分化していく。成婚者の活動日数は「5~7ヶ月」がボリュームゾーンに。男女別（中央値）では、男性303日、女性251日と、女性のほうが活動日数は短くなる。



成婚者のお見合い数は「1~5回」「6~10回」がボリュームゾーンに。10回以内のお見合いで成婚相手と出会っていることが分かる。中には10回以上のお見合いを重ねて成婚へ至るケースもあることから、数回のお見合いで諦めてしまわずに、「週・月に〇回お見合いをする」と目標を決めて活動していくことが大事になるだろう。



成婚へ至るまでの交際数（中央値）は男性5人、女性4人となることから、男女ともに約2回に1回はお見合いから交際に発展していることが分かる。



成婚相手との交際日数は「90~119日」が最多となることから、成婚相手と初めて会った日（お見合い日）から4ヶ月以内に成婚している方が多いと言える。一般的な平均交際期間4年<sup>1</sup>よりも1/12の期間となるが、結婚相談所では“結婚を目標とする”方しかいないことや、第三者（仲人）による活動サポートにより、結婚観のすり合わせを早い段階から行うことで、短期間で成婚へ至りやすい特徴がある。



## 地域別（関東・東海・関西）成婚者比較

### 成婚者の特徴 - 関東 -

	平均値		中央値		最頻値	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢	38.8	35.6	38.0	34.0	36.0	34.0
在籍日数	443.0	350.0	289.0	244.0	150~179	150~179
申込数	166.6	76.3	57.0	32.0	1~5	1~5
申受数	126.1	179.3	55.0	116.0	1~5	36~40
お見合い数	21.2	16.5	13.0	12.0	6~10	6~10
交際数	7.8	6.1	5.0	4.0	1~5	1~5
交際日数	133.0	131.5	124.0	123.0	90~119	90~119
年収	8,173,022	5,189,905	7,000,000	5,000,000	6,000,000	4,000,000



続いてエリア別の傾向（中央値）を見ていく。関東は他エリアと比較して在籍日数が1~2ヶ月ほど短く、お見合い数も多いことから、短期間（約8~9ヶ月）で効率よく成婚まで至っていることが分かる。

### 成婚者の特徴 - 東海 -

	平均値		中央値		最頻値	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢	38.4	35.2	37.0	34.0	33.0	30.0
在籍日数	503.6	427.2	352.0	271.5	210~239	150~179
申込数	121.8	34.7	51.5	14.0	1~5	1~5
申受数	41.9	151.4	17.0	103.5	1~5	21~25
お見合い数	15.6	14.2	10.0	10.0	1~5	6~10
交際数	6.3	5.6	4.0	4.0	1~5	1~5
交際日数	148.2	149.6	136.0	136.0	90~119	90~119
年収	7,167,431	4,377,990	6,000,000	4,000,000	6,000,000	3,000,000



東海の特徴（中央値）として、男性は在籍日数1年、交際日数4.5ヶ月。女性はIn籍日数9ヶ月、交際日数4.5ヶ月と、他の地域と比較して慎重に活動している傾向が。

活動状況を他エリアと比較すると、女性は「申込数」に対し「申受数」が7.4倍と、多くの方からお見合い申込みをされているのに対し、男性は「申込数」に対し「申受数」が少なくなることから、男性会員が特に多い東海は、男性が積極的に申込み、女性が受け身となっている可能性が高い。

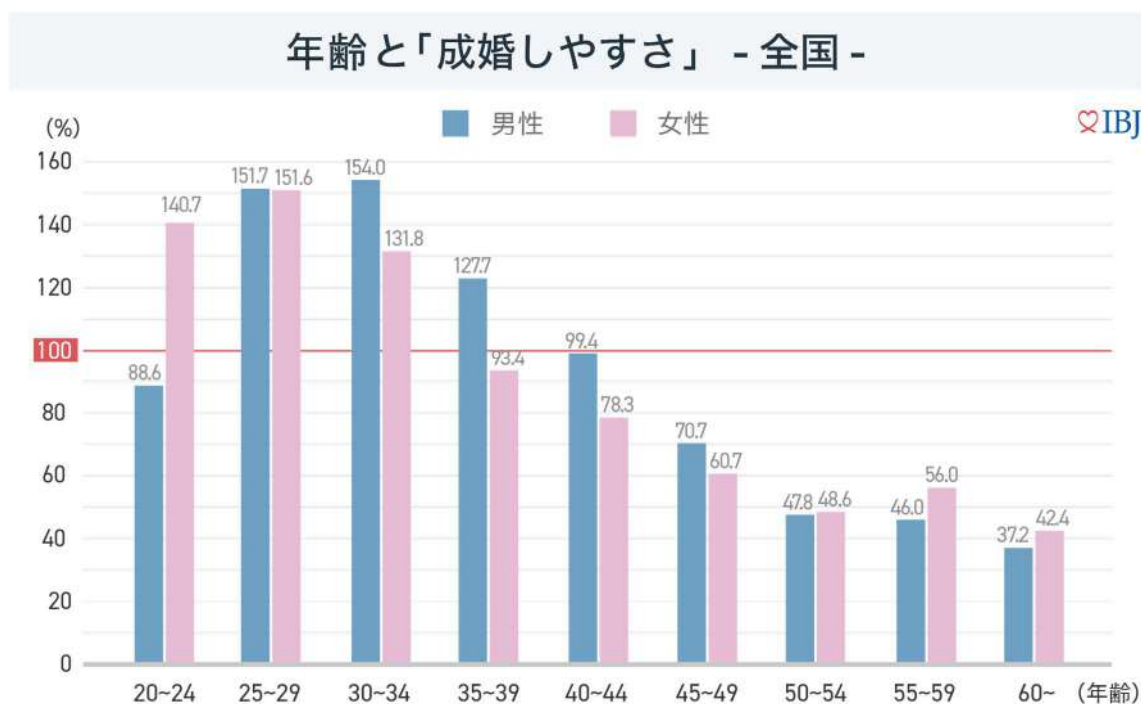
## 成婚者の特徴 - 関西 -

	平均値		中央値		最頻値	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
年齢	39.4	35.8	38.0	34.0	34.0	34.0
在籍日数	525.0	426.0	315.0	274.0	210~239	180~209
申込数	127.6	69.7	41.0	30.5	1~5	1~5
申受数	134.1	121.7	61.0	87.0	1~5	26~30
お見合い数	20.9	14.9	13.0	10.5	1~5	1~5
交際数	7.6	5.6	5.0	4.0	1~5	1~5
交際日数	144.0	144.6	130.0	130.0	90~119	90~119
年収	7,219,576	4,591,125	6,000,000	4,000,000	6,000,000	3,000,000



関西は、東海と逆転して、女性が積極的にお見合いを申込んでいることが分かる。男性のお見合い申受数（中央値）が全国比 1.7 倍となり、女性からのお見合い申込数が全国比 1.2 倍と高いことから、女性から積極的に申込みをしていくことが成婚の可能性を高めるポイントとなる。

# 「年齢」と成婚しやすさ



年代別「成婚しやすさ」では、男女ともに年齢を重ねるごとに、相対的に「成婚しにくく」なっていることが分かる。男性は39歳まで、女性は34歳までが成婚しやすく、特に「20～24歳」の男性は昨年より成婚しやすさが2倍になっている。若者世代の入会数が増加したことによる活動の活発化が成婚しやすさにつながった。

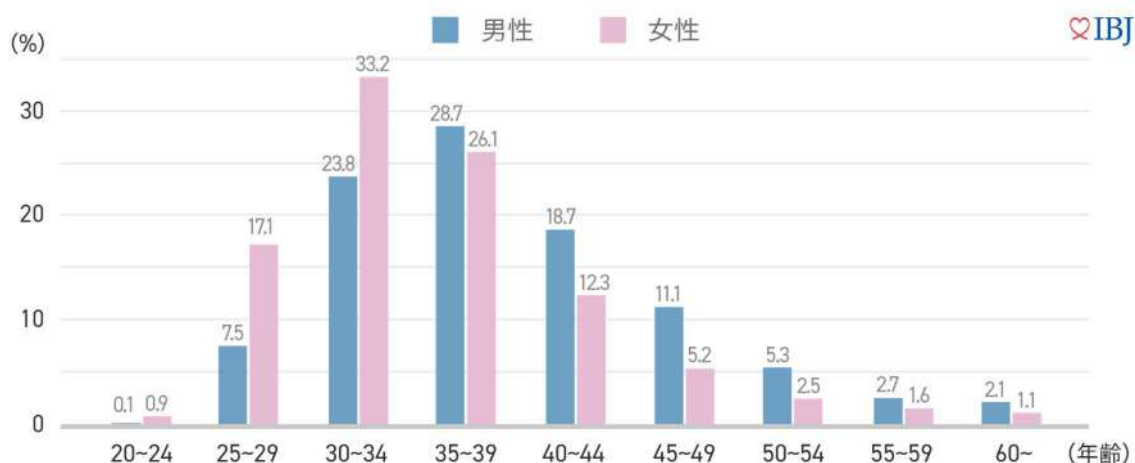
## 補足説明

「成婚しやすさ」とは、活動会員数における各年代の比率を分母とし、成婚者における各年代の比率を分子として表したもの（100%が平均）  
成婚者・活動会員における年齢分布は次ページを参照

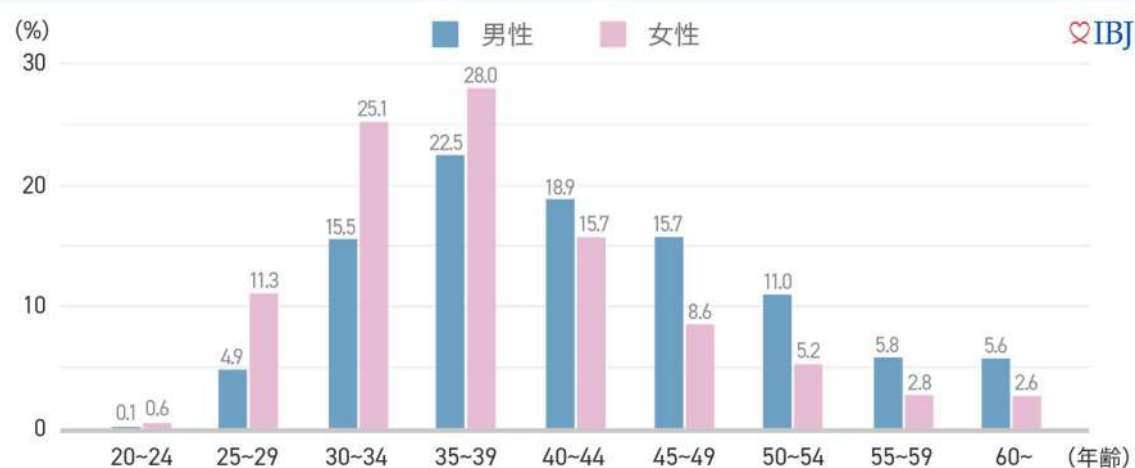
「成婚しやすさ」の計算方法

- (例) 成婚者10人のうち、20代の成婚者が3人＝成婚者のうち20代が30%を占める・・・①  
活動者数20人のうち、20代の活動者は5人＝活動会員のうち20代は25%を占める・・・②  
20代の成婚しやすさは、①÷②＝120%

### 成婚者の年齢分布 - 全国 -



### 活動会員の年齢分布 - 全国 -



成婚者と活動会員の年齢分布を比較すると、成婚女性は「30～34歳」が最多であるのに対し、活動会員は「35～39歳」が最多となっていることから、成婚の可能性を高めるためには、早めに活動を始めることが重要となる。

## 年齢別の成婚者像 - 全国 男性 -

男性成婚者		20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~
在籍日数	平均	149.3	257.8	359.8	428.8	519.3	645.0	668.5	573.3	559.5
	中央	154.0	212.0	261.0	308.0	362.0	401.0	406.0	329.0	279.5
申込数	平均	46.6	52.3	86.7	126.5	169.1	227.5	253.3	182.5	88.8
	中央	28.5	26.0	35.0	47.0	64.0	76.0	86.0	45.0	29.5
申受数	平均	9.5	49.8	90.9	125.3	122.7	90.6	69.4	51.9	32.8
	中央	5.0	16.0	33.0	44.5	47.0	38.0	25.0	25.0	12.5
お見合い数	平均	7.6	11.4	16.5	19.5	21.3	22.2	20.1	18.3	12.9
	中央	6.0	8.0	11.0	12.0	13.0	13.0	13.0	10.0	7.5
交際数	平均	3.1	4.7	6.4	7.3	8.0	8.2	8.1	7.1	5.6
	中央	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0	4.0
交際日数	平均	87.9	127.3	137.3	138.9	142.2	140.7	137.3	129.8	108.7
	中央	79.0	122.0	130.0	129.0	131.0	126.0	122.0	115.5	97.0
相手年齢	平均	25.7	28.3	30.6	33.7	37.3	41.0	45.8	51.1	58.8
	中央	26.0	28.0	30.0	34.0	37.0	41.0	46.0	52.0	59.0
年齢差	平均	-2.0	-0.3	1.6	3.2	4.5	5.8	5.7	5.6	6.3
	中央	-2.0	0.0	1.0	3.0	4.0	6.0	5.0	5.0	6.0

## 年齢別の成婚者像 - 全国 女性 -

女性成婚者		20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~
在籍日数	平均	186.3	250.2	338.3	398.8	495.4	539.2	420.3	465.0	536.2
	中央	169.0	205.0	252.0	273.0	311.0	312.5	241.0	241.5	216.0
申込数	平均	36.0	36.2	56.2	73.8	95.5	65.7	39.2	44.9	29.3
	中央	11.0	18.0	25.0	29.0	34.0	25.0	11.0	21.0	10.0
申受数	平均	81.3	126.9	144.8	170.9	173.7	125.0	81.4	65.1	35.9
	中央	48.0	78.0	87.0	115.0	120.0	93.5	53.0	53.5	26.5
お見合い数	平均	7.4	12.8	15.2	15.6	17.0	14.3	11.9	11.6	10.1
	中央	7.0	9.0	11.0	11.0	12.0	10.0	7.0	8.0	6.0
交際数	平均	3.2	4.9	5.7	6.0	6.5	5.6	5.2	4.8	4.5
	中央	2.0	4.0	4.0	4.0	5.0	4.0	3.0	3.0	2.5
交際日数	平均	116.3	126.5	138.4	142.4	142.3	143.8	122.5	109.8	96.6
	中央	104.0	118.0	130.0	131.0	130.0	122.5	108.0	99.5	88.0
相手年齢	平均	31.2	31.6	35.1	40.0	45.1	50.0	54.9	59.9	65.8
	中央	30.0	31.0	35.0	40.0	45.0	50.0	54.0	59.0	64.0
年齢差	平均	-7.6	-3.8	-3.0	-3.3	-3.7	-3.2	-3.0	-3.1	-1.8
	中央	-7.0	-4.0	-3.0	-3.0	-3.0	-3.0	-3.0	-3.0	-1.0



男女ともに、年齢を重ねるに連れて在籍期間は長くなり、お見合い数も増えることから、複数人と比較して選ぶ（選ばれる）傾向が。お相手との年齢差を見ると、20～30代の男性は年齢差3歳以内の女性と成婚しているが、40代以降の男性は年齢差が4歳以上となる。一方女性は、20代を除き、全年齢でお相手との年齢差は最大3歳以内に留まる。

## 「学歴」と成婚しやすさ

### 学歴×年齢 成婚しやすさ - 全国 男性 -

学歴	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	全体
義務	0.0%	0.0%	39.1%	88.8%	31.3%	18.6%	18.2%	53.9%	54.1%	41.1%
高卒	46.0%	75.8%	84.9%	72.4%	59.6%	57.3%	31.9%	148.9%	141.1%	77.1%
専卒	0.0%	107.4%	90.6%	72.6%	58.0%	62.0%	33.5%	253.0%	364.9%	86.5%
高専卒	0.0%	140.7%	88.8%	122.5%	43.4%	66.2%	78.2%	312.7%	373.2%	115.3%
短大卒	0.0%	26.1%	78.2%	70.6%	67.3%	55.8%	22.7%	175.9%	171.6%	74.1%
大卒	106.6%	113.9%	117.6%	97.2%	74.5%	68.6%	35.4%	209.5%	236.3%	99.6%
院卒	0.0%	169.5%	148.5%	122.1%	104.9%	103.0%	52.2%	400.3%	506.1%	136.9%
その他	0.0%	0.0%	60.1%	73.3%	93.1%	88.8%	27.9%	167.5%	97.7%	87.7%



昨年と引き続き「院卒」が最も成婚しやすいことが分かる。一方で、「大卒」の成婚しやすさは昨年より6.8ポイント下がった。昨年は30代で「義務教育」「高卒」「専卒」「高専卒」も100%を上回っていたが、今年は「大卒・院卒」から100%を上回る結果に。

### 学歴×年齢 成婚者構成比 - 全国 男性 -

学歴	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	合計
義務	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
高卒	0.0%	0.6%	1.5%	1.8%	1.6%	1.7%	0.8%	2.2%	2.4%	12.5%
専卒	0.0%	0.4%	0.8%	1.5%	1.1%	1.2%	0.5%	1.4%	1.4%	8.2%
高専卒	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	1.4%
短大卒	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	1.1%
大卒	0.1%	3.0%	10.5%	12.4%	7.8%	5.8%	2.0%	6.4%	6.6%	54.6%
院卒	0.0%	1.5%	4.8%	5.6%	3.4%	2.0%	0.6%	1.9%	1.9%	21.7%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%



## 学歴×年齢 成婚しやすさ - 全国 女性 -

学歴	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	全体
義務	0.0%	0.0%	325.7%	76.0%	114.0%	101.3%	0.0%	0.0%	26.8%	73.2%
高卒	171.0%	183.3%	162.8%	106.3%	108.4%	72.3%	65.1%	66.0%	39.9%	104.2%
専卒	188.7%	162.3%	164.0%	108.5%	100.0%	68.1%	69.7%	70.8%	61.8%	114.0%
高専卒	0.0%	47.2%	84.0%	51.8%	87.7%	0.0%	182.4%	57.0%	0.0%	59.9%
短大卒	0.0%	174.2%	130.0%	99.2%	73.4%	62.3%	44.9%	54.1%	37.6%	82.4%
大卒	139.3%	158.8%	131.2%	91.5%	71.3%	58.0%	41.6%	47.9%	40.9%	100.4%
院卒	0.0%	154.2%	130.4%	99.5%	87.3%	73.5%	14.0%	127.7%	19.0%	105.4%
その他	0.0%	182.4%	97.7%	114.0%	50.7%	76.0%	0.0%	0.0%	91.2%	82.9%



女性は「専卒」が最も成婚しやすい事が分かる。しかし、女性は男性と比較すると学歴による差が出にくく、重要視されにくいと言える。一方で年代別に比較すると、20代~30代前半までは「大卒・院卒」の成婚しやすさが100%を上回っているのに対し、30代後半以降は100%を下回る。

## 学歴×年齢 成婚者構成比 - 全国 女性 -

学歴	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	合計
義務	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
高卒	0.2%	1.0%	2.1%	1.8%	1.2%	0.6%	0.5%	0.4%	0.3%	8.1%
専卒	0.2%	1.5%	3.3%	3.5%	1.9%	0.7%	0.5%	0.2%	0.2%	11.9%
高専卒	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
短大卒	0.1%	0.9%	1.8%	2.5%	1.7%	1.3%	0.6%	0.4%	0.2%	9.5%
大卒	0.4%	12.0%	22.4%	16.4%	7.0%	3.1%	1.2%	0.7%	0.4%	63.6%
院卒	0.0%	0.9%	2.1%	1.9%	0.9%	0.4%	0.0%	0.1%	0.0%	6.3%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%





# 「年収」と成婚しやすさ

## 年収×年齢 成婚しやすさ - 全国 男性 -

年収(万円)	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	全体
300未満	195.3%	32.6%	24.9%	32.2%	31.6%	12.9%	0.0%	31.3%	31.3%	26.8%
300~	43.4%	67.0%	69.8%	45.0%	33.0%	27.6%	18.1%	81.4%	60.4%	48.7%
400~	46.0%	125.8%	96.7%	76.1%	45.8%	39.5%	19.5%	175.5%	134.0%	74.9%
500~	78.1%	142.2%	148.0%	98.5%	65.1%	57.1%	24.5%	190.8%	250.2%	99.4%
600~	195.3%	140.5%	145.3%	113.8%	85.9%	77.9%	27.9%	205.8%	414.0%	111.2%
700~	0.0%	169.3%	137.7%	112.8%	98.2%	88.2%	42.3%	240.4%	441.5%	123.1%
800~	0.0%	125.6%	132.0%	132.8%	115.7%	67.5%	49.0%	190.6%	375.4%	121.1%
900~	0.0%	48.8%	141.8%	121.8%	87.9%	115.3%	57.7%	298.0%	615.0%	140.4%
1,000~	0.0%	130.2%	141.7%	126.0%	115.2%	123.5%	71.2%	346.4%	552.9%	163.0%
1,500~	0.0%	195.3%	116.2%	189.4%	120.4%	129.1%	54.8%	327.7%	364.2%	164.2%
2,000~	0.0%	390.7%	78.1%	131.8%	87.7%	96.4%	52.1%	201.3%	247.0%	123.3%



昨年は「400万円～」成婚しやすさ100%を上回っていたが、今年は「600万円～」が成婚しやすいという結果になった。また、年代別に比較しても25～29歳では「400万円～」30～34歳では「500万円～」35～39歳は「600万円～」と昨年よりも100万円ずつ成婚しやすさのハードルが上がっている。さらに、40～44歳では、昨年よりも200万円高い「800万円～」が成婚しやすい結果となっている。

成婚者と退会者で年収を比較した際に成婚者の年収が高いことから年収条件は婚活において重要な判断材料になっていると言える。

### 年収×年齢 成婚者構成比 - 全国 男性 -

年収(万円)	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	全体
300未満	0.0%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	1.1%
300~	0.0%	0.7%	1.4%	1.0%	0.6%	0.4%	0.1%	0.4%	0.6%	5.2%
400~	0.0%	1.9%	3.9%	3.4%	1.5%	1.0%	0.3%	1.1%	1.1%	14.2%
500~	0.0%	1.7%	5.3%	4.8%	2.4%	1.6%	0.4%	1.4%	1.5%	19.1%
600~	0.0%	0.7%	3.3%	4.3%	2.5%	1.9%	0.5%	1.7%	1.6%	16.5%
700~	0.0%	0.3%	1.7%	2.6%	2.1%	1.6%	0.6%	1.9%	1.9%	12.6%
800~	0.0%	0.1%	0.8%	1.9%	1.6%	0.9%	0.4%	1.1%	1.1%	8.0%
900~	0.0%	0.0%	0.5%	0.9%	0.7%	0.9%	0.3%	1.0%	1.0%	5.3%
1,000~	0.0%	0.1%	0.8%	1.8%	1.8%	1.8%	0.9%	2.5%	2.5%	12.2%
1,500~	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%	0.6%	0.4%	0.2%	0.6%	0.6%	3.1%
2,000~	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.4%	0.4%	0.2%	0.6%	0.6%	2.6%



### 年収×年齢 退会者構成比 - 全国 男性 -

年収(万円)	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~	全体
300未満	0.1%	0.7%	0.9%	1.2%	0.6%	0.7%	0.6%	0.3%	1.5%	6.6%
300~	0.1%	1.8%	2.6%	3.1%	2.5%	1.9%	0.9%	0.6%	1.1%	14.6%
400~	0.0%	2.0%	3.9%	4.5%	3.5%	3.6%	2.0%	1.0%	1.2%	21.5%
500~	0.0%	1.2%	3.5%	3.7%	3.3%	3.0%	1.7%	1.0%	0.8%	18.3%
600~	0.0%	0.5%	1.6%	3.1%	2.4%	2.4%	1.5%	0.7%	0.5%	12.8%
700~	0.0%	0.2%	0.8%	1.5%	1.4%	1.6%	1.2%	0.6%	0.5%	7.8%
800~	0.0%	0.1%	0.5%	0.9%	0.9%	0.9%	0.7%	0.5%	0.3%	4.9%
900~	0.0%	0.1%	0.2%	0.6%	0.7%	0.6%	0.4%	0.5%	0.3%	3.3%
1,000~	0.0%	0.1%	0.5%	1.2%	1.3%	1.4%	1.0%	0.5%	0.4%	6.4%
1,500~	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%	0.2%	0.2%	0.1%	1.7%
2,000~	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	2.0%



# 「その他要素」と成婚しやすさ

## 「職業」と成婚しやすさ - 男性 -

	男性		
	成婚しやすさ	成婚者における割合	会員全体における割合
公認会計士	226.6%	0.6%	0.3%
弁護士	174.0%	0.5%	0.3%
各種コンサルタント	169.5%	0.9%	0.5%
IT 関連職	151.1%	12.5%	8.3%
大学教授・准教授	145.5%	0.6%	0.4%
クリエイター・マスコミ系職種	145.1%	1.0%	0.7%
国家公務員	135.9%	3.4%	2.5%
メーカー関連職	135.9%	3.4%	2.5%
銀行・証券関連職	134.2%	1.4%	1.0%
その他金融系職種	129.2%	0.7%	0.6%
医師	126.1%	2.6%	2.0%
営業・企画系職種	125.4%	7.0%	5.6%
教師・講師	119.3%	2.3%	2.0%
技術・研究職	114.7%	15.2%	13.3%
地方公務員	111.6%	7.0%	6.2%
土木・不動産・建築系職種	110.1%	3.2%	2.9%
事務・管理系職種	105.1%	6.6%	6.3%
医療系職種	93.9%	1.3%	1.4%
経営者・会社役員	93.5%	4.9%	5.2%
物流・運輸関連職	92.9%	2.0%	2.2%
介護・福祉関連職	69.6%	1.4%	2.1%
自営業（会社組織・個人事業）	66.2%	2.8%	4.3%
販売・小売・飲食・サービス系職種	65.1%	2.1%	3.2%
会社員	60.8%	13.4%	22.1%
その他	43.5%	0.6%	1.4%

※成婚者または全体における会員構成割合が 0.5% に満たない職業は省略



職業と成婚しやすさでは、「公認会計士」が唯一 200% を超え、母集団で占める割合の 2 倍近い成婚しやすさとなった。続いて「弁護士」が 174% となり、人気職種と言われる士業が上位に。

成婚者または全体における構成割合が 5% を超える職業に限定して言及すると、男性は昨年引き続き「IT 関連職」「営業・企画系職種」「技術・研究職」「地方公務員」「事務・管理系職種」が 100% を超える。

## 「職業」と成婚しやすさ - 女性 -

	女性		
	成婚しやすさ	成婚者における割合	会員全体における割合
クリエイター・マスコミ系職種	136.8%	1.8%	1.3%
介護・福祉関連職	136.1%	4.0%	2.9%
看護師	127.4%	6.7%	5.2%
医療系職種	121.5%	7.9%	6.5%
IT 関連職	120.9%	4.0%	3.3%
資格関連職種	117.1%	1.9%	1.6%
販売・小売・飲食・サービス系職種	114.9%	5.4%	4.7%
国家公務員	114.1%	1.1%	1.0%
メーカー関連職	114.1%	1.1%	1.0%
その他金融系職種	111.9%	1.4%	1.2%
土木・不動産・建築系職種	110.4%	1.0%	0.9%
理美容系職種	105.7%	0.7%	0.7%
事務・管理系職種	103.0%	21.1%	20.4%
銀行・証券関連職	102.1%	2.4%	2.4%
営業・企画系職種	100.6%	3.8%	3.8%
自営業（会社組織・個人事業）	97.1%	2.1%	2.1%
技術・研究職	93.4%	2.0%	2.2%
教師・講師	91.8%	4.4%	4.8%
経営者・会社役員	89.0%	0.6%	0.7%
地方公務員	86.3%	5.0%	5.8%
医師	86.3%	2.1%	2.4%
航空業界関連職	85.1%	0.4%	0.5%
薬剤師	85.1%	0.4%	0.5%
歯科医師	85.1%	0.4%	0.5%
パートアルバイト	80.8%	1.7%	2.1%
会社員	78.7%	12.6%	16.1%
家事手伝い	44.5%	0.5%	1.1%
その他	75.0%	2.7%	3.6%

※成婚者または全体における会員構成割合が0.5%に満たない職業は省略



女性は「クリエイター・マスコミ系職種」が最も成婚しやすく、次いで「介護・福祉関連職」「看護師」「医療系職種」と、専門的な知識が必要となる福祉・医療系職種が上位となった。一方最下位は「家事手伝い」となったことから、女性にも社会的立場や定職を求める男性が多いことが分かる。

## 「飲酒」と成婚しやすさ - 全国 -

		飲む	飲まない	付き合い程度
男性	成婚しやすさ	123.0%	74.8%	98.3%
	成婚者における割合	26.5%	11.4%	62.1%
	会員全体における割合	21.5%	15.3%	63.2%
女性	成婚しやすさ	118.5%	91.8%	99.7%
	成婚者における割合	13.0%	20.0%	67.0%
	会員全体における割合	11.0%	21.8%	67.2%



飲酒と成婚しやすさでは、日頃から飲酒習慣がある方のほうが成婚しやすいことが分かる。お酒によって緊張がほぐれ、会話が盛り上がりやすいことや、食事をする機会が多いパートナーとは、お酒の場も同じように楽しみたいと考える方が多いのかもしれない。

## 「喫煙」と成婚しやすさ - 全国 -

		吸う	吸わない	あまり吸わない
男性	成婚しやすさ	67.6%	103.5%	72.0%
	成婚者における割合	3.8%	92.9%	3.4%
	会員全体における割合	5.6%	89.8%	4.7%
女性	成婚しやすさ	74.8%	100.4%	51.5%
	成婚者における割合	0.3%	99.4%	0.3%
	会員全体における割合	0.4%	99.0%	0.6%



喫煙については、男女ともに煙草を「吸わない」ほうが成婚しやすく、喫煙者と非喫煙者の成婚しやすさに大きく差があることから、飲酒は良くても喫煙はNGと考える方が多いようだ。

## 「血液型」と成婚しやすさ - 全国 -

		A型	B型	O型	AB型	不明・その他
男性	成婚しやすさ	99.8%	101.3%	102.4%	98.9%	53.9%
	成婚者における割合	37.9%	22.3%	29.5%	9.4%	0.9%
	会員全体における割合	37.9%	22.0%	28.8%	9.5%	1.7%
女性	成婚しやすさ	104.8%	101.5%	99.4%	99.5%	35.6%
	成婚者における割合	38.6%	21.5%	29.3%	9.6%	1.0%
	会員全体における割合	36.9%	21.2%	29.4%	9.7%	2.9%



男女共に血液型によって「成婚しやすさ」に大きな差は見られなかった。

## 「婚姻歴」と成婚しやすさ - 全国 -

		初婚	再婚	再々婚以上
男性	成婚しやすさ	98.0%	117.1%	61.5%
	成婚者における割合	84.5%	14.8%	0.8%
	会員全体における割合	86.2%	12.6%	1.2%
女性	成婚しやすさ	99.4%	107.5%	73.5%
	成婚者における割合	88.8%	10.6%	0.5%
	会員全体における割合	89.4%	9.9%	0.7%



婚姻歴については、「初婚」よりも「再婚」のほうが成婚しやすく、「再々婚以上」になると成婚しにくい傾向が。昨年同様の結果になるため、離婚や死別等により再婚を希望する場合も、活動の障壁にはなりにくいと言える。

## 「子供の有無」と成婚しやすさ - 全国 -

		あり(同居)	あり(別居)	なし
男性	成婚しやすさ	135.6%	95.4%	100.0%
	成婚者における割合	1.1%	6.5%	92.3%
	会員全体における割合	0.8%	6.9%	92.3%
女性	成婚しやすさ	89.2%	48.1%	102.8%
	成婚者における割合	2.6%	2.1%	95.3%
	会員全体における割合	2.9%	4.4%	92.6%



子供の有無と成婚しやすさでは、男性は「あり(同居)」が一番成婚しやすいが、女性の場合「あり(同居・別居)」は男性よりも大幅に低く、成婚しにくい結果に。男性は女性よりも子供との関係構築にハードルを感じているのかもしれない。

## 「続柄」と成婚しやすさ - 全国 -

		長男・長女	長男・長女以外
男性	成婚しやすさ	99.7%	100.9%
	成婚者における割合	75.0%	25.0%
	会員全体における割合	75.2%	24.8%
女性	成婚しやすさ	100.4%	98.9%
	成婚者における割合	72.9%	27.1%
	会員全体における割合	72.6%	27.4%



続柄と成婚しやすさでは、男女共に大きな差が見られない。相手家族との同居や、介護の負担が大きいという「長男」への世間的なイメージにおいて、結婚相談所では、家族との同居希望をはっきりと示すことができる為か、続柄に関する障壁は低くなっている。

## 「同居希望」と成婚しやすさ - 全国 -

自分家族との同居		希望する	希望しない	こだわらない
男性	成婚しやすさ	40.8%	107.6%	90.5%
	成婚者における割合	0.9%	66.9%	32.1%
	会員全体における割合	2.3%	62.2%	35.5%
女性	成婚しやすさ	82.2%	101.5%	96.9%
	成婚者における割合	1.0%	72.6%	26.4%
	会員全体における割合	1.3%	71.5%	27.3%
相手家族との同居		構わない	難しい	要相談
男性	成婚しやすさ	119.1%	90.0%	107.9%
	成婚者における割合	9.4%	44.2%	46.4%
	会員全体における割合	7.9%	49.1%	43.0%
女性	成婚しやすさ	110.5%	99.3%	100.5%
	成婚者における割合	2.6%	59.7%	37.7%
	会員全体における割合	2.4%	60.2%	37.5%



自分家族との同居を「希望する」方は、男女ともに成婚しにくくなるが、会員全体における構成割合が3%以下と、自分家族との同居を希望する方はごく僅かである。「こだわらない」を選択した方も100%を下回ることから、曖昧な表現ではなく「希望しない」とはっきり意思表示することが成婚のポイントになるのかもしれない。

一方、相手家族との同居については、「難しい」が最も成婚しにくくなるが、大きな差は見られない。会員全体における構成割合を見ると、相手家族との同居を「構わない」と考える方は1割未満であり、特に女性は相手家族との同居を希望しない方が多くなっている。



## おわりに

国内最多となる成婚を生み出すIBJグループは、全国の結婚相談所へ向けて、成婚者データの特徴を分析した「成婚白書」を2018年より公開してきましたが、人口減少という未曾有の危機に直面する日本において、婚活事業者だけでなく、地域支援にも役立てていただきたいという思いから、2023年の成婚白書では、日本の少子化の現状や要因に焦点を当て、専門家の皆さまからもご意見を賜りました。客観的な視点からご意見を賜りました専門家の皆さまには深く感謝いたします。

本白書で取り上げたデータは、IBJの成婚者や退会者の活動データをあらゆる視点で分析しています。その中で、今回の成婚白書から見て取れる特徴を幾つか取り上げます。

- (1) 成婚者の在籍日数は約9ヶ月、交際日数は4ヶ月程度と、  
一般的な平均交際期間4.3年<sup>1</sup>の1/12となる短い期間で結婚まで意思決定している。
- (2) 女性35歳、男性40歳を分水嶺として成婚しやすさが分かれる。  
若者の結婚相談所利用が増えているが、20代の婚活支援をより強化する必要がある。
- (3) 人口減少エリアの大半が“女性”が多く転出しており、都市部（特に東京）へ流入。  
これにより都市部は男性の方が成婚しやすくなる。
- (4) 女性の年収公開状況が、成婚しやすさに影響しており、年収を公開しているほうが成婚の先行指標となるお見合い数が増えることから、成婚率も14ポイント高くなる。

IBJがなすべきことはこれらの事象をきちんと認識した上で、地域婚活プラットフォームの拡充、特に地方都市でのサポートを強化すること、AIやシステムを最大活用しながらも「ヒト」にしかできない独身者の意思決定支援を重要視し、「仲人育成・教育」を継続的に行い、システムとヒトによる地域仲人基盤を官民連携で構築支援していくことだと考えます。

2023年の出生数は過去最低を記録した前年からさらに下回り、この減少ペースが続くと、2035年には出生数が50万人を割り込む可能性があることから、婚活というサービス・事業領域はますます重要度を増し、大きな責任とモラルが要求されるでしょう。我々はこの課題に真っ向から取り組み、当社の理念である「ご縁がある皆様に幸せにする」という思いのもと、全国4,000社を超える加盟店の皆さまとともに、地域のさらなる活性化を目指して、今後も婚活支援を行ってまいります。

株式会社IBJ

**【発行元】**

株式会社 I B J <https://www.ibjapan.jp/>

本社 : 東京都新宿区西新宿 1-23-7 新宿ファーストウエスト 12 階・17 階

上場市場 : 東証プライム市場 証券コード 6071

代表者 : 代表取締役社長 石坂 茂

事業内容 : 結婚相談所プラットフォーム事業、直営結婚相談所事業

マッチング事業 (イベント・婚活アプリ)

ライフデザイン事業 (ウエディング・住まい・保険・子育て・フォトスタジオ)

**【報道機関からの問い合わせ先】**

[pr@ibjapan.jp](mailto:pr@ibjapan.jp)

株式会社 I B J 広報宛

**【開業に関する問い合わせ先】**

<https://forms.office.com/r/R1EdhsDmu5>